マニュアルの使いかた

安心してお使いいただくために

●パソコンをお取り扱いいただくための注意事項
　ご使用前に必ずお読みください。

取扱説明書（本書）

●Windowsのセットアップ
●各部の名前
●増設メモリの取り付け／取りはずし
●バッテリで使う方法
●困ったときは
●再セットアップ

オンラインマニュアル

Windowsが起動しているときにパソコンの画面上で見るマニュアルです。オンラインマニュアルでは、『取扱説明書』をさらに詳しく、次の内容を加えて説明しています。

●パソコン本体の機能　●通信機能
●周辺機器　●システム環境の変更
●パスワードや指紋認証によるセキュリティ機能
●設定やデータの移行　など

またQ&A集にも多数項目を加えています。
本製品の電源を入れた状態で、[スタート] → [すべてのプログラム] → [オンラインマニュアル] をクリックするとご覧になれます。

リリース情報

●本製品を使用するうえでの注意事項など
　必ずお読みください。
　本製品の電源を入れた状態で、[スタート] → [すべてのプログラム] → [はじめに] → [リリース情報] をクリックするとご覧になれます。

もくじ

8章　こんなときは　91

付録　109

はじめに

本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、付属の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。内容をよく読んでから使用してください。

本書は、次の決まりに従って書かれています。

記号の意味

⚠危 険	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊1）を負うことがあり、その切迫の度合いが高いこと”を示します。
⚠警 告	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊1）を負うことが想定されること”を示します。
⚠注 意	“取扱いを誤った場合、使用者が傷害（＊2）を負うことが想定されるか、または物的損害（＊3）の発生が想定されること”を示します。
お願い	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
メモ	知っていると便利な内容を示します。
役立つ操作集	知っていると役に立つ操作を示します。
参照	このマニュアルや他のマニュアルへの参照先を示します。 　このマニュアルへの参照の場合 …「　」 　他のマニュアルへの参照の場合 …『　』 　オンラインマニュアルへの参照 …《　》 　オンラインマニュアルにはさまざまな情報が記載されています。

＊1　重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。
＊2　傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが・やけど・感電などをさします。
＊3　物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。

用語について

本書では、次のように定義します。

システム　特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム（OS）を示します。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト

アプリケーションソフトウェアを示します。

Windows XP

Microsoft® Windows® XP Professional operating system 日本語版または、Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版を示します。

Windows　Windows XP を示します。

XP Pro モデル

Microsoft® Windows® XP Professional operating system 日本語版がプレインストールされているモデルを示します。

XP Home モデル

Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版がプレインストールされているモデルを示します。

Office 搭載モデル

Microsoft® Office Personal 2007、Microsoft® Office Professional 2007、Microsoft® Office Personal Edition 2003、Microsoft® Office Professional Enterprise Edition 2003 のいずれかと、Microsoft® Office OneNote® 2007 または Microsoft® Office OneNote® 2003 がプレインストールされているモデルを示します。モデルによっては、Microsoft® Office PowerPoint® 2007 もプレインストールされています。

Microsoft IME

Microsoft® IME 2007 または Microsoft® IME 2003 ／ナチュラルインプット 2003 を示します。

ドライブ　DVD スーパーマルチドライブ／DVD-ROM & CD-R/RW ドライブ／DVD-ROM ドライブ／ CD-ROM ドライブを示します。内蔵されているドライブはモデルによって異なります。

ドライブ内蔵モデル

DVD スーパーマルチドライブ、DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ、DVD-ROM ドライブ、CD-ROM ドライブの、いずれか 1 台が内蔵されているモデルを示します。

Core モデル

インテル® Core™ Duo プロセッサー搭載モデルを示します。

Celeron モデル

インテル® Celeron® M プロセッサー搭載モデルを示します。

無線 LAN モデル

無線 LAN 機能が内蔵されているモデルを示します。

モデム内蔵モデル

モデムが内蔵されているモデルを示します。

フロッピーディスクドライブ内蔵モデル

フロッピーディスクドライブが内蔵されているモデルを示します。

指紋センサ搭載モデル

指紋センサが搭載されているモデルを示します。

記載について

・記載内容には、一部のモデルにのみ該当する項目があります。その場合は「用語について」のモデル分けに準じて、「＊＊＊＊モデルのみ」と注記します。モデルについては、「用語について」を参考にしてください。
・インターネット接続については、内蔵モデムを使用した接続を前提に説明しています。
・アプリケーションについては、本製品にプレインストールまたは内蔵ハードディスクや付属の CD ／ DVD からインストールしたバージョンを使用することを前提に説明しています。
・本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。
・本書は、コントロールパネルの操作方法についてカテゴリ表示を前提に記載しています。クラシック表示になっている場合は、カテゴリ表示に切り替えてから操作説明を確認してください。

参照 カテゴリ表示とクラシック表示『ヘルプとサポート センター』

Trademarks

- Microsoft、Windows、Windows Media、Windows Vista、InfoPath、OneNote、Outlook、PowerPointは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- Intel、インテル、インテル Core、Celeronは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標、または登録商標です。
- ConfigFreeは株式会社東芝の登録商標です。
- Adobe、Adobe ReaderはAdobe Systems Incorporated（アドビ システムズ社）の米国ならびに他の国における商標ならびに登録商標です。
- FastEthernet、Ethernetは富士ゼロックス株式会社の商標または登録商標です。
- Sonic RecordNow!は、Sonic Solutionsの登録商標です。
- InterVideo、WinDVDはInterVideo, Inc.の登録商標または商標です。
- TRENDMICRO、ウイルスバスターはトレンドマイクロ株式会社の登録商標です。
- gooスティックは、NTTレゾナント株式会社の商標です。
- 「PC引越ナビ」は、東芝パソコンシステム株式会社の商標です。
- Javaはサンマイクロシステムズ社の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

取扱説明書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

プロセッサ（CPU）に関するご注意

本製品に使われているプロセッサ（CPU）の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

- 周辺機器を接続して本製品を使用する場合
- ACアダプタを接続せずにバッテリ駆動にて本製品を使用する場合
- マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
- 本製品を通常の電話回線、もしくは低速度のネットワークに接続して使用する場合
- 複雑な造形に使用するソフト（例えば、運用に高性能コンピュータが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト）を本製品上で使用する場合
- 気圧が低い高所にて本製品を使用する場合
  目安として、標高1,000メートル（3,280フィート）以上をお考えください。
- 目安として、気温5～30℃（高所の場合25℃）の範囲を超えるような外気温の状態で本製品を使用する場合

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPUの処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。
また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らす

ための通常の保護機能です。なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記憶機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するよう、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。
この他の使用制限事項につきましては取扱説明書をお読みください。また、詳細な情報については東芝 PC あんしんサポート 0120-97-1048 にお問い合わせください。

著作権について

音楽、映像、コンピュータ・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者および著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的にまたは家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守の上、適切な使用を心がけてください。

お願い

- 本製品の内蔵ハードディスクにインストールされている、または付属の CD ／ DVD からインストールしたシステム（OS）、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- Windows のシステムツールまたは本書に記載している手順以外の方法でパーティションを変更・削除・追加しないでください。ソフトウェアの領域を壊すおそれがあります。
- 内蔵ハードディスクにインストールされている、または付属の CD ／ DVD からインストールしたシステム（OS）、アプリケーションは、本製品でのみ利用できます。
- 購入時に決められた条件以外で、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。
- 本製品に内蔵されている画像を、本製品での壁紙以外の用途に使用することを禁じます。
- パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを削除できなくなった場合は、使用している機種（型番）を確認後、保守サービスに連絡してください。有償にてパスワードを解除します。HDD パスワードを忘れてしまった場合は、ハードディスクは永久に使用できなくなり、交換対応となります。この場合も有償です。またどちらの場合も、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

・本製品はセキュリティ対策のためのパスワード設定や、無線LANの暗号化設定などの機能を備えていますが、完全なセキュリティ保護を保証するものではありません。
セキュリティの問題発生や、生じた損害に関し、弊社は一切の責任を負いません。
・指紋の認識率には、個人差があります。
・指紋認証技術は、データやハードウェアの完璧な保護を保証してはおりません。
本機能を利用したことによる、いかなる障害、損害に関して、一切の責任は負いかねますので、ご了承ください。
・ご使用の際は必ず本書をはじめとする各説明書と『エンドユーザ使用許諾契約書』および『ソフトウェアに関する注意事項』をお読みください。
・アプリケーション起動時に使用許諾書が表示された場合は、内容を確認し、同意してください。使用許諾書に同意しないと、アプリケーションを使用することはできません。一部のアプリケーションでは、一度使用許諾書に同意すると、以降起動時に使用許諾書は表示されませんが、リカバリを行った場合には使用許諾書が表示されます。
・『東芝保証書兼お客様登録カード』は、「東芝保証書」と「お客様登録カード」を中央の切り取り線で切り離せます。「東芝保証書」は記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

本製品のお客様登録（ユーザ登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。付属の『お客様登録カード』または弊社ホームページで登録できます。

参照 詳細について《オンラインマニュアル 10章 5 お客様登録をする》

1章

セットアップ

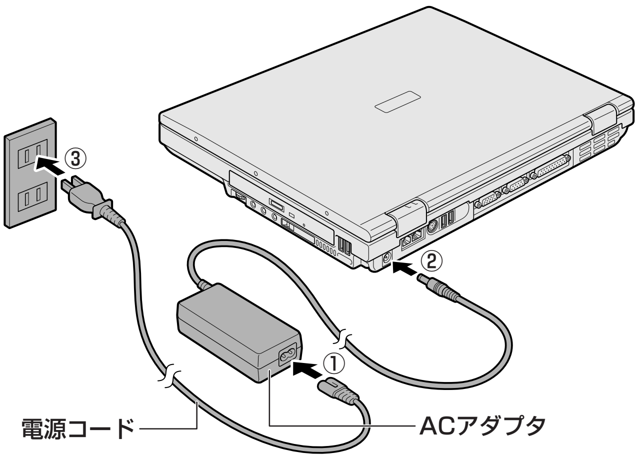
電源を入れて、パソコンを使えるようにするための
Windowsのセットアップを行います。

1　パソコンの準備

ここでは、電源コードとACアダプタを接続して電源を入れる方法について説明します。初めて本製品を使用する場合は、必ず次の手順で行ってください。

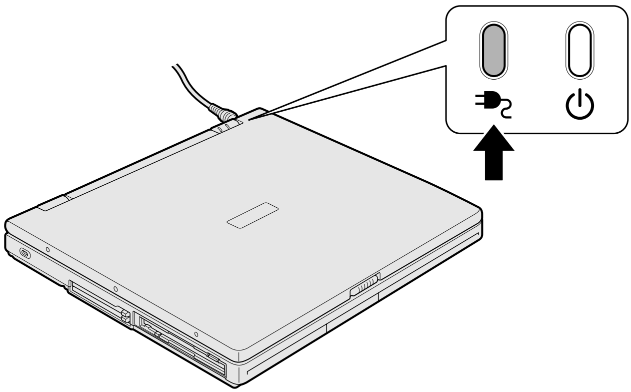
1 電源コードとACアダプタを接続する

電源コードとACアダプタの接続は、次の図の①→②→③の順に行います。
はずすときは、逆の③→②→①の順で行います。



接続すると

DC IN LEDが緑色に点灯します。また、Battery LEDがオレンジ色に点灯し、バッテリへの充電が自動的に始まります。

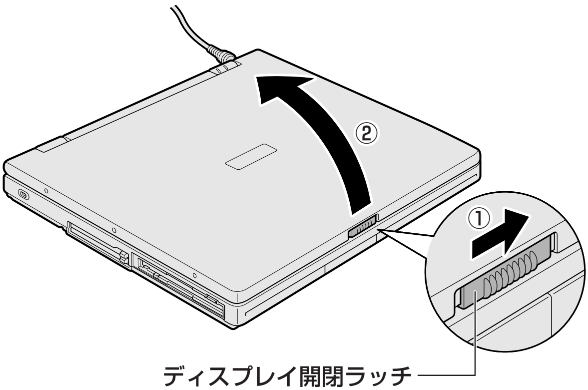


② 電源を入れる

電源コードとACアダプタを接続したら、電源を入れましょう。

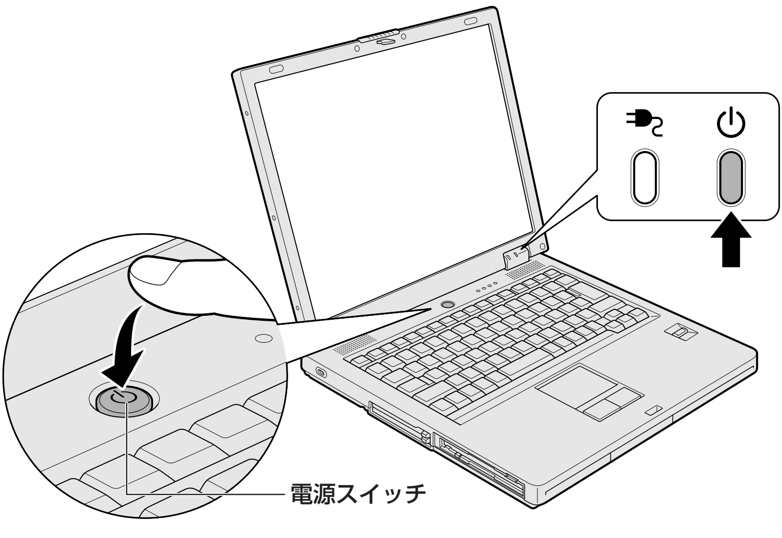
1 パソコン本体正面のディスプレイ開閉ラッチをスライドし①、ディスプレイを開ける②

両手を使ってゆっくり起こしてください。



2 電源スイッチを押す

Power ⏻ LEDが緑色に点灯するまで、電源スイッチを押してください。



2 Windows のセットアップ

パソコンを使えるようにするために、Windows のセットアップを行います。
セットアップを始める前に、『安心してお使いいただくために』を必ず読んでください。特に電源コードや AC アダプタの取り扱いについて、よく読んで注意事項を守ってください。

1 セットアップの前に

お願い セットアップをするにあたって

- 周辺機器は接続しないでください。
  セットアップは AC アダプタと電源コードのみを接続した状態で行ってください。セットアップが完了するまでプリンタ、マウスなどの周辺機器や LAN ケーブルは接続しないでください。
- 途中で電源を切らないでください。
  セットアップの途中で電源スイッチを押したり電源コードを抜くと、故障や起動ができない原因になり修理が必要となることがあります。
- 操作は時間をあけないでください。
  セットアップ中にキー操作が必要な画面があります。時間をあけないで操作を続けてください。30 分以上タッチパッドやキーを操作しなかった場合、画面に表示される内容が見えなくなりますが、故障ではありません。もう 1 度表示するには、Shift キーを押すか、タッチパッドをさわってください。
- 使用する Windows の管理番号を「Product Key」といいます。
  Product Key はパソコン本体に張られているラベルに印刷されています。このラベルは絶対になくさないようにしてください。再発行はできません。紛失した場合、マイクロソフト社からの保守サービスが受けられなくなります。

2 Windows XPのセットアップ

次の手順に従ってセットアップを行ってください。
初めて電源を入れると、［Microsoft Windowsへようこそ］画面が表示されます。

メモ

Windows XPのセットアップが完了するまで、音量の調節はできません。

1 操作方法

1 ［次へ］ボタンをクリックする

［使用許諾契約］画面が表示されます。

メモ

画面右下の ? ボタンをクリックするか F1 キーを押すと、Windows セットアップのヘルプが表示されます。

2 ［使用許諾契約書］の内容を確認して［同意します］の左にある○をクリックし、［次へ］ボタンをクリックする

契約に同意しなければ、セットアップを続行することはできず、Windowsを使用することはできません。
▼ ボタンをクリックすると契約書の続きを表示できます。
［コンピュータを保護してください］画面が表示されます。

3 目的に合わせてどちらかの項目の左にある○をクリックし、［次へ］ボタンをクリックする

［コンピュータに名前を付けてください］画面が表示されます。

4 ［このコンピュータの名前］にコンピュータ名を入力し、［次へ］ボタンをクリックする

半角英数字で任意の文字列を入力してください。このとき、同じネットワークに接続するコンピュータとは別の名前にしてください。
企業で本製品を使用する場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。
XP Home モデルの場合は、［インターネットに接続する方法を指定してください。］画面が表示されます。手順８へ進んでください。
XP Pro モデルの場合は、［管理者パスワードを設定してください］画面が表示されます。

5 ［管理者パスワード］と［パスワードの確認入力］にパスワードを入力する

Administrator と呼ばれる管理者のユーザアカウントのパスワードを設定します。管理者のユーザアカウントでは、コンピュータにフルアクセスできます。
パスワードには、半角の英数文字および記号を使用することができます。パスワードは大文字と小文字が区別されますので注意してください。例えば「PASSWORD」と「password」は別のパスワードとして識別されます。

参照 入力に使うキーの位置について
《オンラインマニュアル 3 章 2 キーボード》

［管理者パスワード］欄での入力後、Tabキーを押すと「｜」が［パスワードの確認入力］欄に移動します。「｜」はカーソルといい、表示されている位置から文字などを入力できます。

6 ［次へ］ボタンをクリックする

［このコンピュータをドメインに参加させますか？］画面が表示されます。
ドメインの設定は、セットアップ完了後に行えますので、ここでは省略した場合について説明します。

7 ［いいえ、このコンピュータをドメインのメンバにしません］の左にある○をクリックし、［次へ］ボタンをクリックする

［インターネットに接続する方法を指定してください。］画面が表示されます。
［インターネットに接続する方法を指定してください。］画面ではなく［インターネット接続が選択されませんでした］画面が表示されることがあります。

画面が表示される前に、[インターネット接続を確認しています] 画面が表示されることがあります。そのまま次の画面が表示されるのをお待ちください。
インターネット接続の設定は、セットアップ完了後に行えるので、ここでは省略した場合について説明します。

8 [省略] ボタンをクリックする

[Microsoftにユーザー登録する準備はできましたか？] 画面が表示されます。
マイクロソフト社へのユーザ登録は、市販のWindows XPを購入された場合のみ必要ですので、ここでは省略した場合について説明します。

9 [いいえ、今回はユーザー登録しません] の左にある○をクリックし、[次へ] ボタンをクリックする

[このコンピュータを使うユーザーを指定してください] 画面が表示されます。

10 [ユーザー 1] 欄に使う人の名前を入力する

[ユーザー 1] 欄にポインタを合わせてクリックすると、「|」が点滅します。
「|」はカーソルといい、表示されている位置から文字などを入力できます。

参照 入力に使うキーの位置について
《オンラインマニュアル 3章 2 キーボード》

Windows XPでは複数のユーザを設定し、それぞれのユーザごとに別々の環境を構築できますが、ここでは1人の名前だけ入力した場合について説明します。

メモ

- **ローマ字入力で入力する場合**
  半角英数字で「dynabook」と入力したいときは、はじめにキーボードの(半/全)キーを押して、日本語入力システムMicrosoft IMEの日本語入力モードをオフにしてから、(D)(Y)(N)(A)(B)(O)(O)(K)と押します。
  キーを押しても文字が表示されない場合は、[ユーザー] 欄に「|」(カーソル) が表示され点滅していることを確認してください。表示されていないときは、[ユーザー] 欄をクリックしてください。
  文字の入力を間違えたら、(BackSpace)キーを押して入力ミスした文字を削除します。

11 ［次へ］ボタンをクリックする

［設定が完了しました］画面が表示されます。

12 ［完了］ボタンをクリックする

Windowsのセットアップが終了するとパソコンが自動的に再起動します。

メモ

- 次のようなパーティションがハードディスクに作成されています。
  Cドライブ：NTFSシステム
- 東芝へのユーザ登録を行ってください。

参照 ユーザ登録について
《オンラインマニュアル 10章 5 お客様登録をする》

3 オンラインマニュアルについて

Windows が起動しているときに、取扱説明書（本書）をパソコン画面上で見ることができます。
オンラインマニュアルでは、『取扱説明書』をさらに詳しく、次の内容を加えて説明しています。

- パソコン本体の機能
- 通信機能
- 周辺機器
- システム環境の変更
- パスワードや指紋認証によるセキュリティ機能
- 設定やデータの移行（「PC 引越ナビ」）　　　　　　など

また Q&A 集にも多数項目を加えています。

次のように操作すると、「Adobe Reader」が起動し、「オンラインマニュアル」が表示されます。

起動方法

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［オンラインマニュアル］をクリックする

デスクトップ上にある［オンラインマニュアル］アイコンをダブルクリックしても起動できます。

初めて「Adobe Reader」を起動したときは、［ソフトウェア使用許諾契約書］画面が表示されます。契約内容をお読みのうえ、［同意する］ボタンをクリックしてください。［同意する］ボタンをクリックしないと、「Adobe Reader」をご使用になれません。また、「オンラインマニュアル」を見ることはできません。

2章

電源を入れる／切る

ここでは、Windowsのセットアップ終了後に電源を入れる方法と、電源を切る方法について説明します。

1 電源を入れる

ここでは、Windows セットアップを終えた後に、電源を入れる方法について説明します。

参照 初めて電源を入れるとき「1 章 セットアップ」

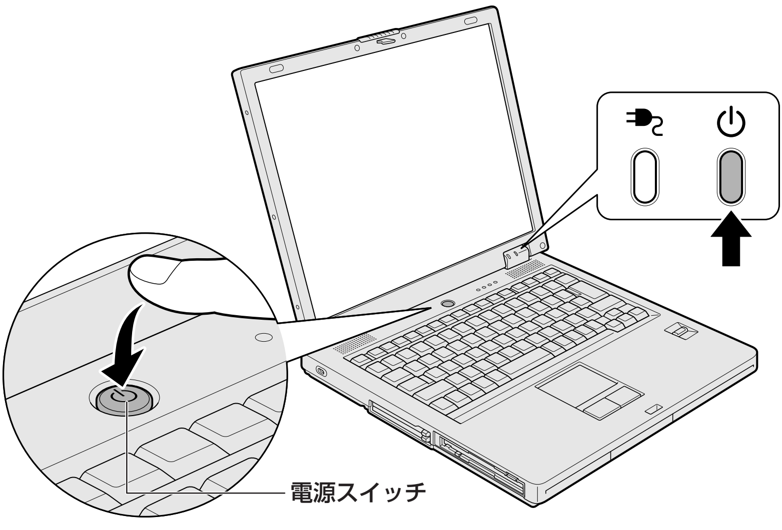
お願い **電源を入れる前に**

- 各スロットにメディアが入っていれば取り出してください。
- プリンタなどの周辺機器を接続している場合は、パソコン本体より先に周辺機器の電源を入れてください。

1 操作手順

1 電源スイッチを押す

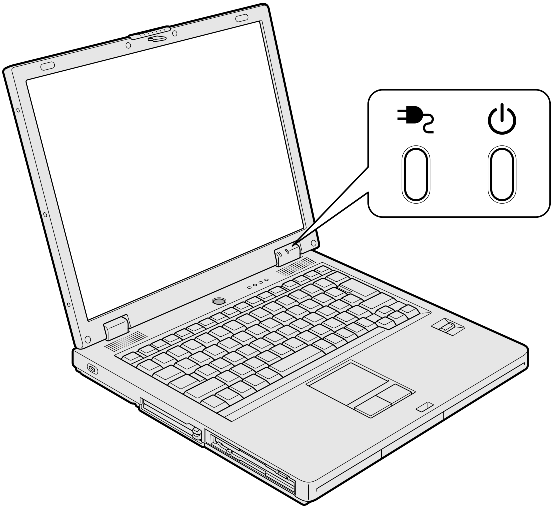
Power ⏻ LED が緑色に点灯するまで、電源スイッチを押してください。



Windows が起動し、デスクトップ画面が表示されます。

2 電源に関する表示

電源の状態は次のシステムインジケータの点灯状態で確認することができます。
電源に関係のあるインジケータとそれぞれの意味は次のとおりです。



	状態	パソコン本体の状態
DC IN LED	緑の点灯	AC アダプタを接続している
	オレンジの点滅	異常警告 （AC アダプタ、バッテリ、またはパソコン本体の異常）
	消灯	AC アダプタを接続していない
Power LED ＊1	緑の点灯	電源 ON
	オレンジの点滅	スタンバイ中
	消灯	電源 OFF、休止状態中

＊1 メモリの増設で、仕様に合わない増設メモリを取り付けるとパソコン本体が起動せず、Power LED が点滅して警告します。「3 章 2 メモリを増設する」を確認してください。

「東芝ピークシフトコントロール」を使用している場合の電源の状態については、《オンラインマニュアル 5 章 2-❷ 東芝ピークシフトコントロール》、『東芝ピークシフトコントロール取扱説明書』（PDF マニュアル）、「東芝ピークシフトコントロール」のヘルプを参照してください。

【 パスワードを設定している場合 】

パスワードやHDDパスワードを設定している場合の電源を入れたときの操作方法は、《オンラインマニュアル 2章 1-2 電源に関する表示》を参照してください。

2 電源を切る

正しい手順で電源を切らないとパソコンが故障したりデータが壊れる原因になりますので、必ず正しい手順で操作してください。
パソコンの使用を一時的に中断したいときには、スタンバイまたは休止状態にする方法もあります。

参照 スタンバイ、休止状態を実行する方法 《オンラインマニュアル 2章 3 パソコンの使用を中断する／電源を切る》

お願い 電源を切る前に

- 必要なデータは必ず保存してください。保存されていないデータは消失します。
- 起動中のアプリケーションは終了してください。
- Disk LED や FDD/CD-ROM / LED が点灯中は、電源を切らないでください。データが消失するおそれがあります。

1 操作手順

1 ［スタート］ボタンをクリックし①、［終了オプション］をクリックする②

XP Pro モデルでドメイン参加している場合、［終了オプション］は［シャットダウン］と表示されます。



2 ［電源を切る］をクリックする



３章

本体の機能

このパソコン本体の各部についての役割やメモリの
増設などを説明しています。

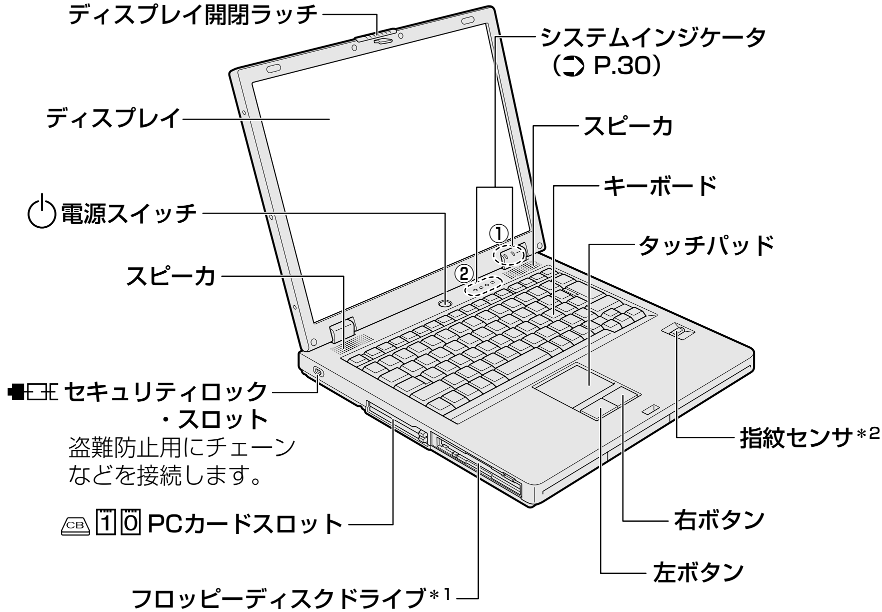
1 各部の名前

ここでは、各部の名前と機能を簡単に説明します。
それぞれの詳しい説明については、各参照ページや《オンラインマニュアル》を確認してください。

メモ

本製品に表示されている、コネクタ、LED、スイッチのマーク（アイコン）、スロットのマーク（アイコン）およびキーボード上のマーク（アイコン）は最大構成を想定した設計となっています。
ご購入いただいたモデルによっては、機能のないものがあります。

1 前面図

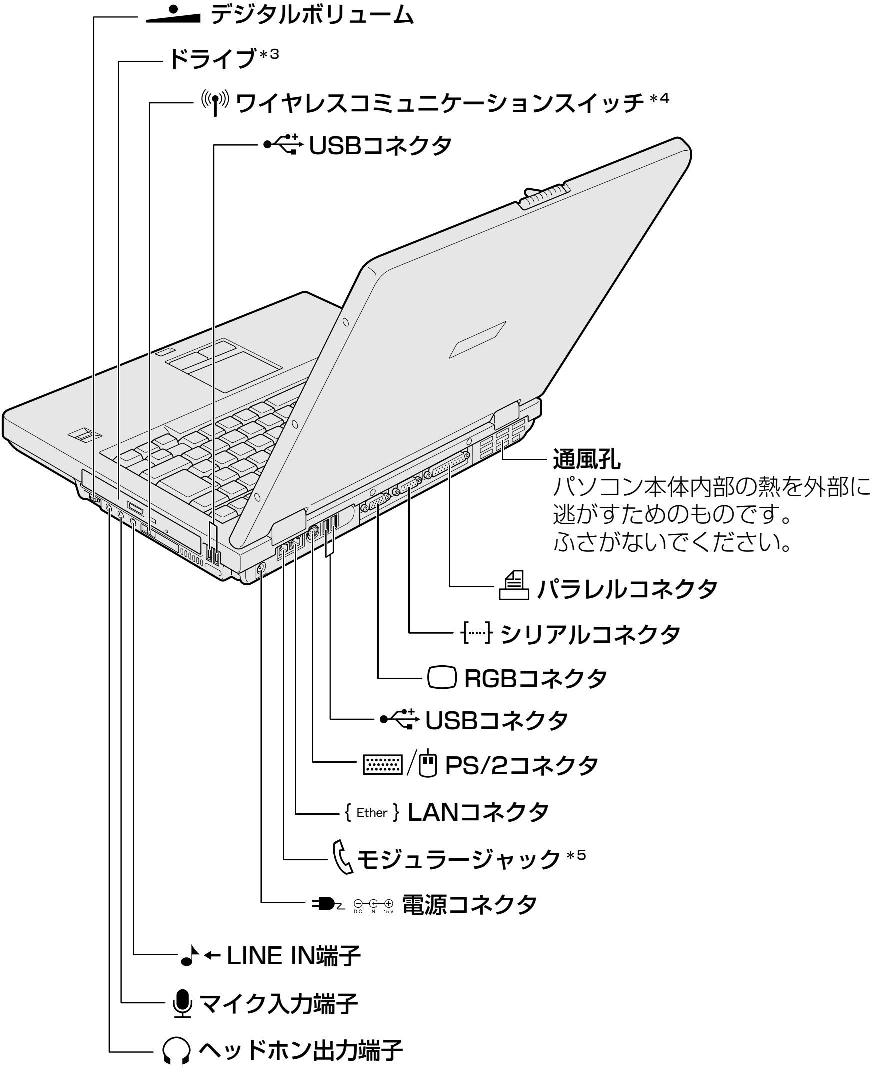


＊1　フロッピーディスクドライブ内蔵モデルのみ
＊2　指紋センサ搭載モデルのみ

メモ

セキュリティロック用の機器については、本製品に対応のものかどうかを販売店にご確認ください。

2 背面図

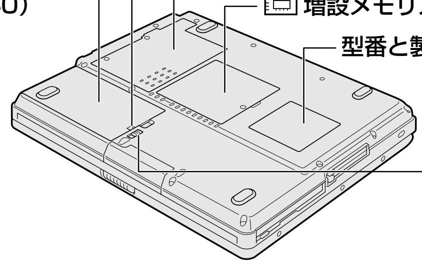


＊3　ドライブ内蔵モデルのみ

＊4　無線 LAN モデルのみ

＊5　モデム内蔵モデルのみ

3 裏面図



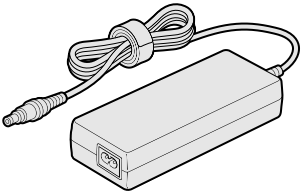
通風孔は、パソコン本体内部の熱を外部に逃がすためのものです。ふさがないでください。

【 システムインジケータ 】

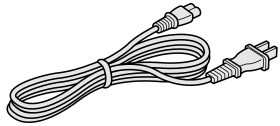
それぞれは、次の状態を示します。

①		DC IN LED	電源コードの接続
		Power LED	電源の状態
②		Battery LED	バッテリの状態
		Disk LED	ハードディスクドライブにアクセスしている
	/	FDD/CD-ROM LED	フロッピーディスクドライブまたはドライブにアクセスしている
		ワイヤレスコミュニケーションLED	無線通信機能の状態

4 付属品



ACアダプタ



電源コード

⚠警 告

- **必ず、本製品付属の AC アダプタを使用すること**
本製品付属以外のACアダプタを使用すると電圧や（+）（−）の極性が異なっていることがあるため、火災・破裂・発熱のおそれがあります。
- **パソコン本体にACアダプタを接続する場合、必ず「1 章 1 パソコンの準備」に記載してある順番を守って接続すること**
順番を守らないと、AC アダプタの DC 出力プラグが帯電し、感電または軽いケガをする場合があります。また、AC アダプタのプラグをパソコン本体の電源コネクタ以外の金属部分に触れないようにしてください。

⚠注 意

- **お手入れの前には、必ずパソコンやパソコンの周辺機器の電源を切り、AC アダプタの電源プラグをコンセントから抜くこと**
電源を切らずにお手入れをはじめると、感電するおそれがあります。

お願い

- 機器に強い衝撃や外圧を与えないように注意してください。製品には精密部品を使用しておりますので、強い衝撃や外圧を加えると部品が故障するおそれがあります。

次の本体の機能は、《オンラインマニュアル》で説明しています。

- キーボード
- タッチパッド
- ディスプレイ
- サウンド機能
- ドライブ
- フロッピーディスクドライブ
- LAN 機能
- 内蔵モデム

参照 《オンラインマニュアル 3 章 本体の機能》

次の周辺機器についても、《オンラインマニュアル》で説明しています。

- PC カード
- USB 対応機器
- プリンタ
- 外部ディスプレイ
- マイクロホン、ヘッドホン、オーディオ機器、RS-232C 対応機器、PS/2 対応機器

参照 《オンラインマニュアル 4 章 周辺機器の接続》

2 メモリを増設する

増設メモリスロットに増設メモリを取り付けることができます。
本製品にはPC2-4200対応、DDR2 SDRAM仕様の2つの増設メモリスロット（スロットAとスロットB）があります。
ご購入のモデルによって、あらかじめ取り付けられているメモリの容量が異なります。
メモリが取り付けられていないスロットに別売りの増設メモリを取り付けたり、取り付けられているメモリを別売りの増設メモリと付け換えることができます。
増設メモリは、容量によって次のタイプがあります。

1GB　　：PAME1003
512MB：PAME5123
256MB：PAME2563

取り付けることのできるメモリの容量は、2つのスロットを合わせて最大2GBまでです。

⚠警 告

- **本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないこと**
  内部には高電圧部分が数多くあり、万一触ると、感電ややけどのおそれがあります。

⚠注 意

- **ステープル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れないこと**
  火災、感電の原因となります。万一、機器内部に入った場合は、バッテリを取りはずし、電源を入れずに、お買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- **増設メモリの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリパックを取りはずしてから作業を行うこと**
  電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- **電源を切った直後に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないこと**
  内部が高温になっており、やけどのおそれがあります。電源を切った後30分以上たってから行ってください。

お願い

- パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにゴミが付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。
- 増設メモリを強く押したり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 増設メモリは、コネクタに差し込む部分ではなく両端（切れ込みがある方）を持つようにしてください。
- スタンバイ／休止状態中に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スタンバイ／休止状態が無効になります。また、保存されていないデータは消失します。
- ネジをゆるめる際は、ネジの種類に合ったドライバを使用してください。
- キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

増設メモリは、東芝製オプションを使用してください。それ以外のメモリを増設すると、起動しなくなったり、動作が不安定になる場合があります。仕様に合わない増設メモリを取り付けるとパソコン本体が起動せず、Power LED が点滅して警告します。

Power LED の点滅状態	エラーの原因
オレンジ→ オレンジ→ 緑 ...	スロット A に動作保証されていないメモリ（SPD 対応）が取り付けられている。
オレンジ→ 緑→ 緑 ...	スロット B に動作保証されていないメモリ（SPD 対応）が取り付けられている。
オレンジ→ オレンジ→ 緑→ 緑 ...	スロット A、スロット B に動作保証されていないメモリ（SPD 対応）が取り付けられている。

起動はするがメモリが認識されない場合は、どちらか一方のスロットには動作保証されているメモリが取り付けられていますが、もう一方のスロットには動作保証されていないメモリ（SPD 非対応）が取り付けられています。

静電気について

増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって回復不能な損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に静電気を逃がしてから作業を行ってください。手近にある金属製のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。

1 取り付け

あらかじめ取り付けられているメモリを交換したい場合は、先にメモリの取りはずしを行ってください。

参照 「本節 2 取りはずし」

1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

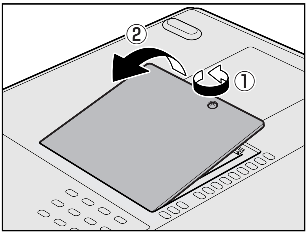
参照 電源の切りかた「2 章 2 電源を切る」

2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす

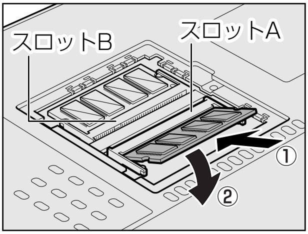
3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリパックを取りはずす

参照 バッテリパックの取りはずし「4 章 1-❸ バッテリパックを交換する」

4 増設メモリカバーのネジ 1 本をゆるめ①、カバーをはずす②



5 増設メモリを増設メモリスロットのコネクタに斜めに挿入し①、固定するまで増設メモリを倒す②



増設メモリの切れ込みを、増設メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかり差し込みます。フックがかかりにくいときは、ペン先などで広げてください。
このとき、増設メモリの両端（切れ込みが入っている部分）を持って差し込むようにしてください。

6 増設メモリカバーをつけて、手順４でゆるめたネジ１本をとめる

増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。

7 バッテリパックを取り付ける

参照 バッテリパックの取り付け「4 章 1-❸ バッテリパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

参照 メモリ容量の確認について「本節 3 メモリ容量の確認」

2 取りはずし

1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

参照 電源の切りかた「2 章 2 電源を切る」

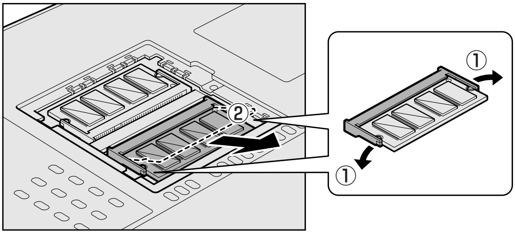
2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす

3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリパックを取りはずす

参照 バッテリパックの取りはずし「4 章 1-❸ バッテリパックを交換する」

4 増設メモリカバーのネジ１本をゆるめ、カバーをはずす

5 増設メモリを固定している左右のフックをペン先などで開き①、増設メモリをパソコン本体から取りはずす②



斜めに持ち上がった増設メモリを引き抜きます。

6 増設メモリカバーをつけて、手順４でゆるめたネジ１本をとめる

増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。

7 バッテリパックを取り付ける

参照 バッテリパックの取り付け「4 章 1-❸ バッテリパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

3 メモリ容量の確認

メモリ容量は「東芝 PC 診断ツール」で確認することができます。

【 確認方法 】

① ［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［PC 診断ツール］をクリックする
② ［基本情報］タブで［物理メモリ］の数値を確認する

4章

バッテリ駆動

パソコンをモバイル使用する際に大事な存在であるバッテリは、使いかたに気をつければ、より長持ちさせることができます。
ここでは、充電や充電量の確認、バッテリを使用するにあたっての取り扱い方法などについて説明しています。

1　バッテリについて

パソコン本体には、バッテリパックが取り付けられています。
バッテリを充電して、バッテリ駆動（AC アダプタを接続しない状態）で使うことができます。
本製品を初めて使用するときは、バッテリを充電してから使用してください。
バッテリ駆動（AC アダプタを接続しない状態）で使う場合は、あらかじめ AC アダプタを接続してバッテリの充電を完了（フル充電）させます。または、フル充電したバッテリパックを取り付けます。
『安心してお使いいただくために』に、バッテリパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリ駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

⚠ 危 険

- **バッテリパックは、必ず本製品に付属の製品を使用すること**
  寿命などで交換する場合は、東芝製バッテリ（TOSHIBA バッテリパック：PABAS073、PABAS075のいずれか）をお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なっていることがあるため火災・破裂・発熱のおそれがあります。
- **バッテリパックを分解・改造しないこと**
  分解・改造すると火災・破裂・発熱の原因となります。指定以外の製品や、分解・改造したものは、安全性や製品に関する保証はできません。

⚠ 警 告

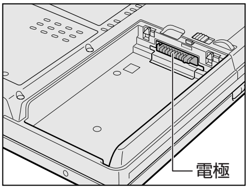
- **別売りのバッテリパックをお買い上げ後、初めて使用する場合にサビ、異臭、発熱などの異常があると思われるときは使用しないこと**
  お買い求めの販売店または、お近くの保守サービスに点検を依頼してください。

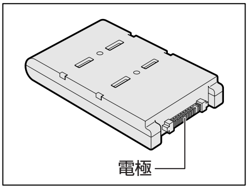
⚠ 注 意

- **バッテリパックの充電温度範囲内（5～35℃）で充電すること**
  充電温度範囲内で充電しないと、液もれや発熱、性能や寿命が低下するおそれがあります。

お願い

- バッテリパックの取り付け／取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。スタンバイを実行している場合は、バッテリパックの取りはずしをしないでください。データが消失します。
- バッテリ駆動で使用しているときは、バッテリの残量に十分注意してください。
  バッテリを使いきってしまうと、スタンバイが効かなくなり、電源が切れて、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時計用バッテリを使いきってしまうと、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、ACアダプタを接続してバッテリと時計用バッテリを充電してください。
- 電極に手を触れないでください。故障の原因になります。



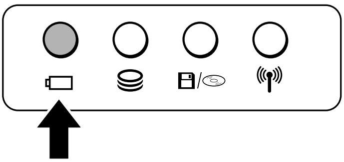


1 バッテリ充電量を確認する

バッテリ駆動で使う場合、バッテリの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリの充電量を確認しておく必要があります。

1 Battery LEDで確認する

ACアダプタを使用している場合、Battery LEDが緑色に点灯すれば充電完了です。



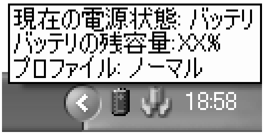
Battery LED は次の状態を示しています。

緑	充電完了
オレンジ	充電中
オレンジの点滅	充電が必要
消灯	・バッテリが接続されていない ・AC アダプタが接続されていない ・バッテリ異常 異常の場合は、購入店または近くの保守サービスに連絡してください。

バッテリ駆動で使用しているときにオレンジ色に点滅した場合は、バッテリの充電が必要です。

2 通知領域の［省電力］アイコンで確認する

通知領域の［東芝省電力］アイコン（ ）の上にポインタを置くと、バッテリ充電量が表示されます。
このときバッテリ充電量以外にも、現在使用しているプロファイル名や、使用している電源の種類が表示されます。



参照 省電力設定について
《オンラインマニュアル 5 章 2 省電力の設定をする》

【 J60 シリーズの場合 】

1ヶ月以上の長期にわたり、AC アダプタを接続したままパソコンを使用してバッテリ駆動を行わないと、バッテリ充電量が少しずつ減少します。このような状態でバッテリ充電量が減少したときは、Battery LED や［省電力］アイコンで充電量の減少が表示されないことがあります。1ヶ月に 1 度は再充電することを推奨します。

参照 再充電について《オンラインマニュアル 5 章 1-❷-2
バッテリを長持ちさせるには（J60 シリーズの場合）》

【 J61 ／ J62 シリーズの場合 】

バッテリの状態が正しく表示できなくなった場合、バッテリパックの充電能力が低下した可能性があります。「東芝バッテリチェッカー」で診断してください。

参照 バッテリの診断《オンラインマニュアル 5 章 1-❸
バッテリの状態を診断する（J61 ／ J62 シリーズの場合）》

3 バッテリ充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリの充電量が少なくなると、次のように警告します。

- Battery LED がオレンジ色に点滅する（バッテリの残量が少ない）
- バッテリのアラームが動作する
  「東芝省電力」の［アクション設定］タブの［アラーム設定］で設定すると、バッテリの残量が少なくなったことを通知したり、自動的に対処する動作を行います。

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。

①パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源を供給する

②電源を切ってから、フル充電のバッテリパックと取り換える

購入時は休止状態が設定されています。バッテリ減少の警告が起こっても何も対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。

長時間使用しないでバッテリが自然に放電しきってしまったときは、警告音も鳴らず、Battery LED でも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

時計用バッテリ

本製品には、取りはずしができるバッテリパックの他に、内蔵時計を動かすための時計用バッテリが内蔵されています。
時計用バッテリの充電は、AC アダプタを接続し電源が入っているとき（電源 ON 時）に行われますので、普通に使用しているときは、あまり意識する必要はありません。
ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。
時計用バッテリが切れていると、時間の再設定をうながす Warning（警告）メッセージが出ます。

【 充電完了までの時間 】

状態	時計用バッテリ
電源 ON（Power ⏻ LED が緑色に点灯）	8 時間

実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

2 バッテリを充電する

充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

お願い

バッテリパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。バッテリは 5 ～ 35℃の室温で充電してください。

1 充電方法

1 パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源コードのプラグをコンセントに差し込む

DC IN LED が緑色に点灯して Battery LED がオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。
電源コードのプラグをコンセントに差し込むと、電源の ON ／ OFF にかかわらずフル充電になるまで充電されます。

2 Battery LED が緑色になるまで充電する

バッテリの充電中は Battery LED がオレンジ色に点灯します。
DC IN LED が消灯している場合は、電源が供給されていません。AC アダプタ、電源コードの接続を確認してください。

メモ

パソコン本体を長時間ご使用にならないときは、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。

【 充電完了までの時間 】

バッテリ充電時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。
周囲の温度が低いとき、バッテリパックの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けている場合は、この時間よりも長くかかることがあります。
詳細は、別紙の『dynabook Satellite J62 シリーズ製品仕様表』、『dynabook Satellite J61 シリーズ製品仕様表』、『dynabook Satellite J60 シリーズ製品仕様表』のいずれかを参照してください。

【 バッテリの駆動時間（使用できる時間）】

バッテリ駆動時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。
詳細は、別紙の『dynabook Satellite J62 シリーズ製品仕様表』、『dynabook Satellite J61 シリーズ製品仕様表』、『dynabook Satellite J60 シリーズ製品仕様表』のいずれかを参照してください。

【 バッテリを節約する 】

バッテリを節約して、本製品をバッテリ駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- こまめに休止状態にする
- 入力しないときは、ディスプレイを閉じておく
- 省電力モードに設定する

参照 《オンラインマニュアル》

【 バッテリ駆動時の処理速度 】

高度な処理を要するソフトウェア（3D グラフィックス処理など）を使用する場合は、十分な性能を発揮するために AC アダプタを接続して使用してください。

【 使っていないときの充電保持時間 】

パソコン本体を使わないで放置していても、バッテリ充電量は少しずつ減っていきます。充電保持時間は、放置環境などによって異なります。
次の保持時間は、フル充電した状態で電源を切った場合の目安にしてください。
詳細は、別紙の『dynabook Satellite J62 シリーズ製品仕様表』、『dynabook Satellite J61 シリーズ製品仕様表』、『dynabook Satellite J60 シリーズ製品仕様表』のいずれかを参照してください。

スタンバイを実行した場合、放電しきるまでの時間が非常に短いため、バッテリ駆動時は休止状態にすることをおすすめします。

③ バッテリパックを交換する

バッテリパックの交換方法を説明します。
バッテリパックの取り付け／取りはずしのときには、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。

お願い

キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

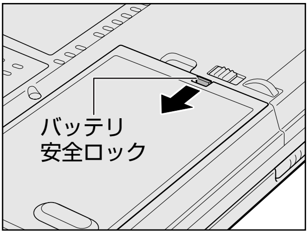
1 取りはずし／取り付け

1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

2 パソコン本体から AC アダプタと周辺機器のケーブル類をはずす

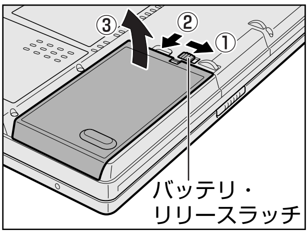
3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す

4 バッテリ安全ロックを矢印の方向に引く

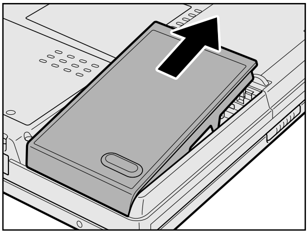


バッテリ・リリースラッチがスライドできるようになります。

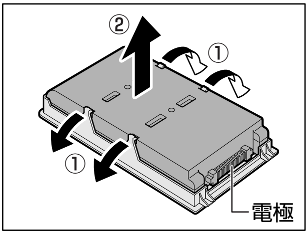
5 バッテリ・リリースラッチをスライドしながら①、くぼみに指をかけて②、バッテリカバーごとバッテリパックを持ち上げる③



6 バッテリカバーごと、バッテリパックを取り出す

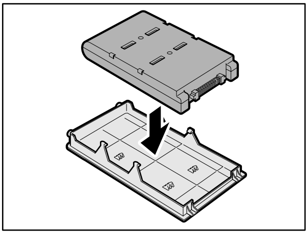


7 バッテリカバーからバッテリパックを取り出す

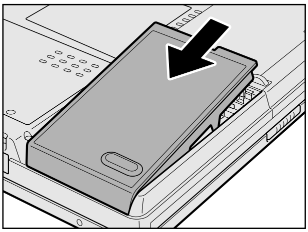


バッテリカバーのツメを左右に広げ①、バッテリパックを取りはずします②。

8 交換するバッテリパックをバッテリカバーに取り付ける

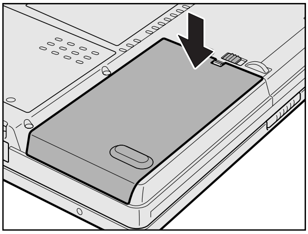


9 バッテリパックをコネクタに斜めに挿入する

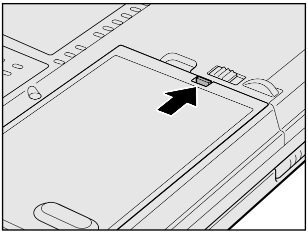


新しいあるいは充電したバッテリパックを注意して差し込んでください。

10 カチッという音がするまで静かに差し込む



11 バッテリ安全ロックを矢印の方向に押す



バッテリパックがはずれないように、バッテリ安全ロックは必ず行ってください。

5章

システム環境の変更

本製品を使用するときの、システム上の環境を設定する方法について説明しています。

1　システム環境の変更とは

本製品は、次のようなパソコンのシステム環境を変更できます。
システム環境を変更するには、Windows 上のユーティリティで変更するか、または BIOS セットアップで変更するか、2 つの方法があります。

通常は、Windows 上のユーティリティで変更することを推奨します。
BIOS セットアップと Windows 上のユーティリティで設定が異なる場合、Windows の設定が優先されます。

各項目の詳細については、オンラインマニュアルを参照してください。

<table>
<tr><th colspan="2">変更できる項目</th><th>Windows 上のユーティリティ</th></tr>
<tr><td colspan="2">ハードウェア環境（パソコン本体）の設定</td><td>「東芝 HW セットアップ」</td></tr>
<tr><td rowspan="2">パスワードセキュリティの設定</td><td>ユーザパスワード</td><td>「東芝パスワードユーティリティ」</td></tr>
<tr><td>スーパーバイザパスワード</td><td>「東芝パスワードユーティリティ」</td></tr>
<tr><td colspan="2">省電力の設定</td><td>「東芝省電力」</td></tr>
</table>

BIOS セットアップについては「本章 2 BIOS セットアップを使う」をご覧ください。

2 BIOS セットアップを使う

BIOS セットアップとは、パソコンのシステム構成をパソコン本体から設定するプログラムのことです。
次のような設定ができます。

- ハードウェア環境（パソコン本体、周辺機器接続ポート）の設定
- セキュリティの設定
- 起動方法の設定
- 省電力の設定

BIOS セットアップの設定項目について詳しくは《オンラインマニュアル》を参照してください。

BIOS セットアップを使用する前の注意

- 通常、システム構成の変更は Windows 上の「東芝 HW セットアップ」、「東芝省電力」、「デバイスマネージャ」、「東芝パスワードユーティリティ」などで行ってください。
  BIOS セットアップと Windows 上の設定が異なる場合、Windows 上の設定が優先されます。
- 使用しているシステムによっては、システム構成を変更しても、変更が反映されない場合があります。
- BIOS セットアップで設定した内容は、電源を切っても消えません。しかし、内蔵バッテリ（時計用バッテリ）が消耗した場合は標準設定値に戻ります。

1 BIOS セットアップの操作

BIOS セットアップの起動と終了、基本操作について説明します。

1 起動

1 Escキーを押しながら電源を入れる

- 「Password = 」と表示された場合
  登録したユーザパスワードまたはスーパーバイザパスワードを入力し、Enterキーを押してください。
- 「HDD Password = 」と表示された場合
  登録した HDD ユーザパスワードまたは HDD マスタパスワードを入力し、Enterキーを押してください。
  「Check system. Then press [F1] key.」と表示されます。

  ユーザパスワードと HDD ユーザパスワードの両方を設定してある場合は、「Password=」に続いて、「HDD Password=」が表示されます。ただし、パスワードと HDD ユーザパスワードが同一の文字列の場合は、「Password=」のみが表示され、パスワードの認証終了後に「HDD Password=」は表示されません。

2 F1キーを押す

BIOS セットアップが起動します。

メモ

- 指紋センサ搭載モデルの場合、「指紋認証ユーティリティ」で指紋を登録すると、パワーオンセキュリティ機能が有効となり、パスワードを設定している場合に表示される「Password=」というメッセージの代わりに、指紋認証を行う画面が表示されます。指紋認証を行うと、パワーオンセキュリティ機能によってパスワードの認証が行われます。
  認証を 5 回失敗するか、またはBack Spaceキーを押すと、「Password =」が表示されます。
  指紋認証について詳しくは、《オンラインマニュアル》または「指紋認証ユーティリティ」のヘルプを参照してください。

2 基本操作

基本操作は次のとおりです。

変更したい項目を選択する	↑ 、↓ 、←、→ 画面中で反転している部分が現在変更できる項目です。
項目の内容を変更する	SpaceまたはBackSpace
画面を切り替える	Fn＋↓またはFn＋↑ 本製品では、Fn＋↓がPgDnキー、Fn＋↑がPgUpキーの機能を持ちます。 次の画面または前の画面に切り替わります。
設定内容を標準値にする	Fn＋← 本製品では、Fn＋←がHomeキーの機能を持ちます。 次の項目は、この操作をしても変更されません。 ●PASSWORD　●HDD PASSWORD ●SYSTEM DATE/TIME ●Execute-Disable Bit Capability ●Core　Multi-Processing ●TPM

3 終了

変更した内容を有効にして終了します。

1 Fn＋→キーを押す

本製品では、Fn＋→がEndキーの機能を持ちます。
画面にメッセージが表示されます。

2 Yキーを押す

設定内容が有効になり、BIOSセットアップが終了します。
変更した項目によっては、再起動されます。

途中で終了する方法

設定内容がよくわからなくなったり、途中で設定を中止する場合に行います。この場合は変更した内容はすべて無効になります。設定値は変更前の状態のままです。

1 【Esc】キーを押す

画面にメッセージが表示されます。

2 【Y】キーを押す

BIOS セットアップが終了します。

6章

困ったときは

パソコンの操作をしていて困ったときに、どうしたら良いかを説明しています。

1 Q&A 集

トラブルの解決方法をQ&A形式で説明しています。
トラブルが起こったときは、あわてずに解決方法を探してみてください。
本書で問題が解決できないときは、オンラインマニュアルを参照してください。
オンラインマニュアルには、トラブルを解決するまでの流れや、より多くのQ&A集が記載されています。

【電源を入れるとき／切るとき】

Q 電源スイッチを押しても反応しない

A 電源スイッチを押す時間が短いと電源が入らないことがあります。
Power ⏻ LED が緑色に点灯するまで押し続けてください。

Q 1 度電源が入りかけるがすぐに切れる 電源が入らない

（Battery LED がオレンジ色に点滅している場合）

A バッテリの充電量が少ない可能性があります。
次のいずれかの対処を行ってください。

- 本製品用の AC アダプタを接続して、電源を供給する（他製品用の AC アダプタは使用できません）
- 充電済みのバッテリパックを取り付ける

参照 バッテリの充電について「4 章 1-❷ バッテリを充電する」

（DC IN LED がオレンジ色に点滅している場合）

A 電源の接続の接触が悪い可能性があります。
バッテリパックや AC アダプタを接続し直してください。

参照 バッテリパックの取り付け／取りはずし
「4 章 1-❸ バッテリパックを交換する」

参照 AC アダプタの接続
「1 章 1-❶ 電源コードと AC アダプタを接続する」

A パソコン内部の温度が一定以上に達すると保護機能が働き、システムが自動的に停止します。
パソコン本体が熱くなっている場合は、涼しい場所に移動するなどして、パソコンの内部温度が下がるのを待ってください。
また、通風孔をふさぐと、パソコンの温度は非常に上昇しやすくなります。通風孔のまわりには物を置かないでください。
それでも電源が切れる場合は、保守サービスに連絡してください。

Q 電源を入れたが、システムが起動しない

A 起動ドライブをハードディスクドライブ以外に設定した場合に、システムの入っていないメディアがセットされている可能性があります。

システムが入っているメディアと取り替えるか、またはドライブからメディアを取り出してから、何かキーを押してください。

それでも正常に起動しない場合は、強制終了してください。強制終了の方法は「本節 電源を入れるとき／切るとき - Q. [シャットダウン] や [終了オプション] から電源が切れない」を確認してください。

強制終了した後、F12キーを押しながら電源スイッチを押してください。

表示されたアイコンの中からシステムの入っているドライブ（通常はハードディスクドライブ）を←→キーで選択し、Enterキーを押すと、システムが起動します。

参照 起動ドライブについて《オンラインマニュアル》

A F8キーを押しながら電源スイッチを押すと、正常な状態で起動しなおすことができます。

F8キーを押しながら電源スイッチを押すと、画面にWindows拡張オプションメニューが表示されます。目的に合わせて [セーフモード] または [前回正常起動時の構成] を選択し、Enterキーを押してください。

参照 詳細について 『ヘルプとサポート センター』

Q [シャットダウン] や [終了オプション] から電源が切れない

A Ctrl＋Alt＋Delキーを押して、電源を切ってください。

この場合、保存されていない作成中のデータは消失します。

- XP Proモデルでドメイン参加している場合

① Ctrl＋Alt＋Delキーを押す
[Windowsのセキュリティ] 画面が表示されます。

② [シャットダウン] ボタンをクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、Alt＋Sキーを押してください。

③ [シャットダウン] を選択し、[OK] ボタンをクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、↑キーや↓キーで [シャットダウン] を選択し、Enterキーを押してください。
プログラムを強制終了し、電源が切れます。

- XP Homeモデル、またはXP Proモデルでドメイン参加していない場合

① Ctrl＋Alt＋Delキーを押す
[Windowsタスクマネージャ] 画面が表示されます。

② メニューバーの［シャットダウン］をクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、Alt＋Uキーを押してください。

③［コンピュータの電源を切る］をクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、Uキーを押してください。
プログラムを強制終了し、電源が切れます。

A **Ctrl＋Alt＋Delキーを押しても反応がない場合は、電源スイッチを５秒以上押してください。**
この場合、保存されていない作成中のデータは消失します。

Q 使用中に突然電源が切れてしまった

A **パソコン内部の温度が一定以上に達すると保護機能が働き、システムが自動的に停止します。**
パソコン本体が熱くなっている場合は、涼しい場所に移動するなどして、パソコンの内部温度が下がるのを待ってください。
また、通風孔をふさぐと、パソコンの温度は非常に上昇しやすくなります。通風孔のまわりには物を置かないでください。
それでも電源が切れる場合は、保守サービスに連絡してください。

Q しばらく操作しないとき、電源が切れる

A **Power ⏻ LEDが緑色に点灯している場合、表示自動停止機能が働いた可能性があります。**
画面には何も表示されませんが実際には電源が入っていますので、電源スイッチを押さないでください。
Shiftキーや Ctrlキーを押す、またはタッチパッドを操作すると表示が復帰します。CRT ディスプレイを接続している場合、表示が復帰するまでに 10 秒前後かかることがあります。

A **Power ⏻ LEDがオレンジ色に点滅しているか、消灯の場合、自動的にスタンバイまたは休止状態になった可能性があります。**
一定時間パソコンを使用しないときに、自動的にスタンバイまたは休止状態にするように設定されています。
復帰させるには、電源スイッチを押してください。
また、次の手順で設定を解除できます。

①［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリック→［東芝省電力］をクリックする

②［プロファイル］で利用するプロファイルを選択する

③ ［基本設定］タブで［システムスタンバイ］および［システム休止状態］のチェックをはずす
④ ［OK］ボタンをクリックする

Q 間違って電源を切ってしまった

A パソコンが処理をしている最中（Disk LED が点灯中）に電源が切れてしまうと、ハードディスクが故障する場合がありますので、正しい終了手順を守ってください。

正しい終了手順に従わずに強制終了した後、パソコンの動作に少しでも異常が起こった場合はエラーチェック（ハードディスクの検査）を行ってください。異常があった場合は、画面の指示に従って操作を行ってください。

参照 エラーチェックについて《オンラインマニュアル》

【Windows】

Q パソコンの処理速度が遅くなった

A パソコンの CPU が高温になり、自動的に処理速度が遅くなった可能性があります。

しばらく作業を中止すると、CPU の温度が下がり処理速度が元に戻ります。
CPU が高温になった場合の対処方法については「東芝省電力」で設定できます。

① ［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリック→［東芝省電力］をクリックする
② ［プロファイル］で利用するプロファイルを選択する
③ ［基本設定］タブの［CPU の熱制御方法］をスライダーバーで設定する
④ ［OK］ボタンをクリックする

「東芝省電力」で設定していても、パソコン使用中の CPU の過熱がおさまらないときは、危険防止のため自動的に電源が切れます（危険防止機能）。この場合は、涼しい場所でしばらくパソコン本体を放置してから使用してください。
それでも電源が切れる場合は、保守サービスに連絡してください。危険防止機能が働いて電源が切れたときは、保存していないデータは失われる場合があります。
定期的にデータのバックアップを取るようにしてください。

【バッテリ駆動で使用するとき】

Q Battery ▭ LEDが点滅した

A バッテリの充電量が残り少ない状態です。
ただちに次のいずれかの対処を行ってください。

- パソコン本体にACアダプタを接続し、電源を供給する
- 電源を切ってから、フル充電のバッテリパックと取り換える

対処しないと、休止状態が有効に設定されている場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。
休止状態が無効に設定されている場合、パソコン本体は何もしないで電源が切れますので、保存されていないデータは消失します。休止状態を有効にしておくことを推奨します。購入時は有効に設定されています。
また、データはこまめに保存しておいてください。

参照 バッテリの充電方法「4章 1-❷ バッテリを充電する」

Q 充電したはずのバッテリパックを使用しても Battery ▭ LEDがオレンジ色に点滅する

A バッテリパックは使わずにいても充電量が少しずつ減っていきます。
もう1度充電してください。
充電しても状態が変わらない場合は、バッテリを再充電してみてください。
バッテリを再充電しても状態が変わらない場合は、バッテリパックの充電機能が低下している可能性があります。別売りのバッテリパックと交換してください。
それでも状態が変わらない場合は、パソコン本体が故障していると考えられます。保守サービスに連絡してください。

参照 バッテリの充電量について「4章 1-❶ バッテリ充電量を確認する」

Q バッテリ駆動でしばらく操作しないとき、電源が切れる

A 自動的にスタンバイまたは休止状態になった可能性があります。
一定時間パソコンを使用しないときに、自動的にスタンバイまたは休止状態にするように設定されています。
復帰させるには、電源スイッチを押してください。
また、次の手順で設定を解除できます。

① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリック→ [東芝省電力] をクリックする
② [プロファイル] で利用するプロファイルを選択する
③ [基本設定] タブで [システムスタンバイ] および [システム休止状態] のチェックをはずす
④ [OK] ボタンをクリックする

【CD ／ DVD】

＊ドライブ内蔵モデルのみ

Q CD ／ DVD が取り出せない

A パソコン本体の電源が入っていないと、イジェクトボタンを押してもディスクトレイは出てきません。

電源を入れてから、イジェクトボタンを押してください。

参照 CD ／ DVD の取り出し
《オンラインマニュアル 3 章 6-❻-2 CD ／ DVD の取り出し》

A パソコン本体の電源が入っている場合は、CD ／ DVD を使用しているアプリケーションをすべて終了してください。

終了後、イジェクトボタンを押してください。

A CD ／ DVD を使用しているアプリケーションをすべて終了していても、CD ／ DVD が取り出せない場合は、パソコンを再起動してください。

Q パソコン本体の電源が入らないため、CD ／ DVD が取り出せない

A ドライブのイジェクトホールを先の細い丈夫なもので押してください。

イジェクトホールは、折れにくいもの（例えばクリップを伸ばしたものなど）で押してください。

折れた破片がパソコン内部に入ると、故障の原因になります。電源が入らないとき以外はこの処置をしないでください。特に、パソコンの動作中は絶対にしないでください。

参照 イジェクトホール
《オンラインマニュアル 3 章 6-❻-2 CD ／ DVD の取り出し》

【メッセージ】

Q 「Password=」と表示された

A 「東芝パスワードユーティリティ」または BIOS セットアップで設定したパスワードを入力し、Enterキーを押してください。
パスワードを忘れた場合は、パスワードファイルを使用してください。
パスワードファイルがない場合は、使用している機種を確認後、保守サービスに連絡してください。有償にてパスワードを解除します。HDD パスワードを忘れてしまった場合は、ハードディスクドライブは永久に使用できなくなり、交換対応となります。この場合も有償です。また、どちらの場合も、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

参照 パスワードについて
《オンラインマニュアル 6 章 4 パスワードセキュリティ》

Q 電源を入れたとき、「Swipe Finger to authorize access...」と表示された

＊指紋センサ搭載モデルのみ

A 指紋認証が必要です。
「指紋認証ユーティリティ」でパワーオンセキュリティ機能を有効に設定していると、パスワードを設定している場合に表示される「Password =」というメッセージの代わりに、指紋認証を行う画面が表示されます。
指紋認証を行うと、パワーオンセキュリティ機能によってパスワードの認証が行われます。
認証を 5 回失敗するか、またはBackSpaceキーを押すと、「Password =」が表示されます。
指紋認証について詳しくは、《オンラインマニュアル 6 章 5 指紋認証を使う》または「指紋認証ユーティリティ」のヘルプを参照してください。

Q 「New Password=」と表示された

A 「新しいパスワードに登録／変更してください。
「東芝パスワードユーティリティ」の［スーパーバイザパスワード］タブで、［ユーザポリシーの設定］画面の［ユーザパスワードの登録／変更を強制する］をチェックすると、次のように設定されます。

- ユーザパスワードが登録されていない場合
  設定後の 1 回目の起動時に、「New Password=」と表示されます。
  ユーザパスワードの登録を行ってください。

- ユーザパスワードが登録されている場合
  設定後の起動時の「Password=」で、ユーザパスワードを初めて入力したときに、「New Password=」と表示されます。
  新しいユーザパスワードに変更してください。
  「Verify Password=」に「New Password=」で入力したパスワードをもう一度入力すると、ユーザパスワードが登録／変更されます。

スーパーバイザパスワードについて詳しくは、《オンラインマニュアル 6 章 4-❷ スーパーバイザパスワード》を参照してください。

Q 「パスワードを忘れてしまいましたか？」「パスワードが誤っています。」と表示された

A 入力モードの状態により大文字／小文字を誤って入力した可能性があります。
Caps Lock LED を確認してください。必要に応じて Shift + CapsLock 英数 キーを押して入力の状態を切り替え、もう 1 度入力してください。

Q 画面が青くなり、次のようなメッセージが画面一面に表示された

- 「A problem has been detected and windows has been shut down to prevent damage to your computer.」

A ハードウェアの接続に不具合が起きた、または何らかの原因で電源を切る前の状態を再現できなくなったというメッセージです。
休止状態のまま増設メモリの取り付け／取りはずしをしたときなどに表示されます。電源を切る前の状態は再現できません。
次の操作を行ってください。

① 電源スイッチを 5 秒以上押し、パソコンを強制終了する
② 再び電源スイッチを押して、パソコンを再起動する
　「システムを前の場所から再起動できませんでした。」というメッセージが表示されます。
③「復元データを削除してシステムブートメニューにすすみます」が反転表示していることを確認し、Enter キーを押す
　Windows が起動します。

Q 「RTC battery is low or CMOS checksum is inconsistent」「Press[F1]Key to set Date/Time.」と表示された

A 時計用バッテリが不足しています。

時計用バッテリは、ACアダプタを接続し、電源を入れているときに充電されます。

参照 時計用バッテリについて「4章 バッテリ駆動」

ACアダプタを接続後、次の手順で、BIOSセットアップの日付と時刻を設定してください。

① F1キーを押す
BIOSセットアップ画面が表示されます。

② BIOSセットアップの［Date］と［Time］で日付と時刻を設定する

参照 日付と時刻の設定方法について
《オンラインマニュアル6章3-❸-2 SYSTEM DATE/TIME》

③ Fn＋→キーを押す
確認のメッセージが表示されます。

④ Yキーを押す
BIOSセットアップが標準設定の状態になり、終了します。
パソコンが再起動します。

Q 休止状態から復帰したとき、「休止モードを準備しています」と表示された

A ［コントロールパネル］の［ユーザーアカウント］→［ユーザーのログオンやログオフの方法を変更する］の［ようこそ画面を使用する］がチェックされていると、休止状態から復帰したときにメッセージが表示される場合があります。

ログオンしたいユーザ名をクリックしてください。正常にログオンできます。

Q 「システムは休止状態からの復帰に失敗しました」と表示された

A 休止状態が無効になったというメッセージです。

電源を切る前の状態は再現できません。

［復元データを削除してシステムブートメニューにすすみます］を選択し、Enterキーを押してください。

Windowsが起動します。

Q C:¥ >_ のように表示された

A コマンドプロンプトが全画面表示されています。
次のいずれかの操作を行ってください。

● コマンドプロンプト画面をウィンドウ表示に切り替える
【Alt】＋【Enter】キーを押してください。

● コマンドプロンプト画面を終了する
① 【E】【X】【I】【T】とキーを押す
② 【Enter】キーを押す

Q その他のメッセージが表示された

A 使用しているシステムやアプリケーションの説明書を確認してください。

【その他】

Q パソコン本体からカリカリと変な音がする

A ハードディスクが自動保存を行っています。
パソコン操作中は、自動的にデータの保存などの内部作業が行われています。
ハードディスクが動作する音が聞こえますが、問題はありません。
極端に異常な音が聞こえるなど、おかしいと思われる状態が発生したときは、購入した販売店または保守サービスまで連絡してください。

Q パソコンが応答しない

A 応答しないアプリケーションを強制終了してください。
この場合、保存されていないデータは消失します。
アプリケーションを終了しても調子がおかしい場合は、以降の操作を行ってください。

A Windows を強制終了し、再起動してください。
強制終了の方法は、次のとおりです。
システムが操作不能になったとき以外は行わないでください。強制終了を行うと、スタンバイ／休止状態は無効になります。また、保存されていないデータは消失します。

● XP Proモデルでドメイン参加している場合

① Ctrl＋Alt＋Delキーを押す
［Windowsのセキュリティ］画面が表示されます。

② ［シャットダウン］ボタンをクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、Alt＋Sキーを押してください。

③ ［シャットダウン］を選択し、［OK］ボタンをクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、↑キーや↓キーで［シャットダウン］を選択し、Enterキーを押してください。
プログラムを強制終了し、電源が切れます。

④ パソコン本体の電源を入れる

● XP Homeモデル、またはXP Proモデルでドメイン参加していない場合

① Ctrl＋Alt＋Delキーを押す
［Windowsタスクマネージャ］画面が表示されます。

② メニューバーの［シャットダウン］をクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、Alt＋Uキーを押してください。

③ ［コンピュータの電源を切る］をクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、Uキーを押してください。
プログラムを強制終了し、電源が切れます。

④ パソコン本体の電源を入れる

Q コンピュータウイルスに感染した可能性がある

A ウイルスチェックソフトでウイルスチェックを行い、ウイルスが発見された場合は駆除してください。

ウイルスチェックソフトの操作方法がわからない場合や、ウイルス駆除ができなかった場合は、ウイルスチェックソフトのメーカへお問い合わせください。

Q 異常な臭いや過熱に気づいた！

A パソコン本体、周辺機器の電源を切り、電源コードのプラグをコンセントから抜いてください。安全を確認してバッテリパックをパソコン本体から取りはずしてから購入店、または保守サービスに相談してください。

なお、連絡の際には次のことを伝えてください。

- 使用している機器の名称
- 購入年月日
- 現在の状態（できるだけ詳しく連絡してください）

参照 修理の問い合わせについて『東芝PCサポートのご案内』

Q 操作できない原因がどうしてもわからない

A パソコン本体のトラブルの場合は、《オンラインマニュアル 8章 1-❷-1 トラブルチェックシート》で、必要事項を確認のうえ、東芝PC あんしんサポートに連絡してください。

A OS ／アプリケーションのトラブルの場合は、各OS ／アプリケーションのサポート窓口に問い合わせてください。

参照 アプリケーションの問い合わせ先「8章 5 問い合わせ先」

A 周辺機器のトラブルの場合は、各周辺機器のサポート窓口に問い合わせてください。

参照 周辺機器の問い合わせ先『周辺機器に付属の説明書』

Q パソコンを廃棄したい

A 本製品を廃棄するときは、家庭で使用している場合と企業で使用している場合では、廃棄方法が異なります。
また、ハードディスクのデータを消去する必要があります。
詳しくは「8章 4 廃棄・譲渡について」を確認してください。

Q 海外でパソコンを使いたいときは？

A 次の点に気をつけてください。

1 お使いになる国／地域の電源プラグの形状を確認する

● AC アダプタ

本製品のAC アダプタは、100 ～ 240V の電圧に対応しているので、この範囲内の電圧の国／地域で使用できます。
本製品に付属しているAC アダプタは基本的に世界中の国／地域＊1 で使用できます。

＊1 一部の国の特定地域では、使用できない場合があります。

● 電源コード

電源コード（電源プラグからAC アダプタまでのケーブル）は、日本の法令、安全規格に適合しています。
海外でお使いになる場合は、使用電圧や電源プラグの形状が異なりますので、お使いになる国／地域の法令・安全規格に適合する電源コード（市販品）をご用意ください。

参照 AC アダプタ、AC ケーブル、電源プラグについて
「1章 1-❶ 電源コードとAC アダプタを接続する」

2 通信関係の確認をする

● 内蔵モデム、無線LAN

国／地域によっては、モデムや無線LAN装置の使用に認可が必要です。本製品は出荷時に認可を受けていますが、すべての国／地域の認可は受けていません。「付録2 技術基準適合について」やカタログ、または対応する国／地域を記載したシートで、使用できる国／地域を確認してください。
それ以外の国／地域で本製品を使用する場合は、その国／地域に対応した機器（市販品）を使用するか、内蔵モデムや無線LAN機能の使用はお控えください。東芝製オプションはありません。各国／地域に適合した機器をご購入ください。

● モジュラージャックの形状

モジュラージャックは、国／地域によって形状が異なります。本製品は北米と日本の形状に対応していますが、その他の国／地域ではプラグをその地にあう形状に変換するための変換プラグ（市販品）が必要です。東芝製オプションはありません。各国／地域で法令・規格に適合したモジュラーケーブルや変換プラグをご購入ください。

● モデム設定ユーティリティ

本製品に内蔵されているモデムは、多数の国／地域で利用可能です。「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」で、使用する国／地域を設定してください。

参照 設定方法
《オンラインマニュアル 3章 9-❷ 海外でインターネットに接続する》

3 必要なものを準備する

- 取扱説明書
- リカバリCD-ROM（付属しているモデルの場合）
- Officeパッケージ
- 保証書

再セットアップする必要が生じたときのために、リカバリCD-ROM（付属しているモデルの場合）、Office搭載モデルの場合は「Microsoft® Office Personal 2007」、「Microsoft® Office Professional 2007」、「Microsoft® Office Personal Edition 2003」、「Microsoft® Office Professional Enterprise Edition 2003」のいずれかと「Microsoft® Office OneNote® 2007」または「Microsoft® Office OneNote® 2003」のパッケージ一式をお持ちください。
本製品はハードディスクまたはリカバリCD-ROMから再セットアップできますが、Office搭載モデルの場合、「Microsoft® Office Personal 2007」、「Microsoft® Office Professional 2007」、「Microsoft® Office Personal Edition 2003」、「Microsoft® Office Professional Enterprise Edition 2003」のいずれかと「Microsoft® Office

OneNote® 2007」または「Microsoft® Office OneNote® 2003」は付属のCD-ROMから再インストールする必要があります。

参照 再セットアップについて「7章 1 再セットアップとは」

故障したときのために、保証書と購入時のレシート[*1]をお持ちください。
ILW（International Limited Warranty）は海外の所定の地域[*2]でILWの制限事項・確認事項の範囲内で、修理サービスがご利用いただける、東芝の制限付海外保証制度です。保証書がILWの保証書を兼ねています。
ILWについての詳細は、次のホームページも参照してください。
http://dynabook.com/assistpc/ilw/index_ j.htm

＊1 保証書に購入店の捺印と購入日が明記されていれば、必要ありません。
＊2 ILW対象地域の一部地域では、法律により輸出入が規制されている部品・役務があります。規制に該当する場合は、サービス対象外となりますのであらかじめご了承ください。

4 プロバイダを選定する

加入しているプロバイダのアクセスポイントがその地域になければ、メールを送受信するたびに、普段よりも料金が余計にかかります。加入しているプロバイダのアクセスポイントが渡航先にあるか、または、アクセスポイントを持つ他のプロバイダと提携接続サービス（ローミングサービス）を行っていれば、通常通りにメール送受信が可能です。
旅立つ前に、加入しているプロバイダのホームページで、アクセスポイントやローミングサービスの有無、設定方法などを確認しておくことをお奨めします。

＜必要な書類など＞
海外に持ち出す物によっては、「輸出貿易管理令および外国為替令に基づく規制貨物の該非判定書」という書類が必要な場合がありますが、本パソコンを、旅行や短期出張で自己使用する目的で持ち出し、持ち帰る場合、該非判定書は基本的には必要ありません。ただし、パソコンを他人に使わせたり譲渡する場合には、輸出許可が必要となる場合があります。
また、パソコンを米国政府の定める輸出規制国に持ち出す場合は、米国政府の輸出許可が必要となる場合があります。
パソコンを海外で使用する場合のより詳細な情報は、下記のホームページを参照してください。
http://dynabook.com/assistpc/export/index_j.htm

7章

再セットアップ

これまでに説明してきたトラブル解消方法では解決できないとき、最後に行うのがパソコンの再セットアップです。再セットアップすることで、システムやアプリケーションを購入時の状態に復元できます。よく読んでから行ってください。

1 再セットアップとは

システムやアプリケーションを購入時の状態にリカバリ（復元）することを再セットアップといいます。

1 再セットアップが必要なとき

次のようなときには、《オンラインマニュアル 8 章 1 トラブルを解消するまで》で解消へのアプローチを確認してください。いろいろな解消方法を紹介しています。それでも、解消できないときに再セットアップしてください。

再セットアップが必要な場合	再セットアップ方法
ハードディスクをフォーマットしてしまった	リカバリする
ハードディスクにあるシステムファイルを削除してしまった	
電源を入れても、システム（Windows）が起動しない	
プレインストールされていたアプリケーションを削除したが、もう 1 度インストールしたい	アプリケーションやドライバごとに再インストールする

2 再セットアップ方法

再セットアップには、次の方法があります。目的にあった再セットアップ方法を選んでください。

【 リカバリする 】

システムを購入時の状態に戻します。プレインストールされているアプリケーションの一部を復元します。

参照 詳細について「本章 2 再セットアップ=リカバリをする」

【 アプリケーションやドライバごとに再インストールする 】

プレインストールされているアプリケーションのなかから、必要なアプリケーションやドライバを指定して再インストールできます。

参照 詳細について「本章 3 アプリケーションを再インストールする」

3 再セットアップする前に

1 トラブル解消方法を探す

パソコンの調子がおかしいと思ったときは、《オンラインマニュアル 8 章 1 トラブルを解消するまで》で解消へのアプローチを確認してください。いろいろな解消方法を紹介しています。
それでも、解消できないときに再セットアップしてください。

2 データのバックアップをとる

リカバリすると、ハードディスク内に保存されていたデータは、すべて消えてしまいます。購入後に作成したファイルなど、必要なデータは、あらかじめ外部記憶メディアにバックアップをとって保存してください。
また、インターネットやハードウェアなどの設定は、すべて購入時の状態に戻ります。リカバリ後も現在と同じ設定でパソコンを使いたい場合は、現在の設定を控えておいてください。
ただし、ハードディスクをフォーマットしたりシステムファイルを削除した場合や電源を入れてもシステムが起動しない場合は、データを保存することができません。
また、リカバリを行っても、ハードディスクに保存されていたデータは復元できません。
バックアップは、普段から定期的に行っておくことを推奨します。

3 パソコンのハードウェア構成を購入時の状態に戻す

フロッピーディスクドライブやマウス、増設したハードウェアドライブやメモリなど、周辺機器を取りはずしてください。

4 音量を調節する

再セットアップ後、Windows セットアップが終了するまで音量調節はできません。
Fn＋Escキーを使って、内蔵スピーカやヘッドホンの音量をミュート（消音）にしている場合は、もう一度Fn＋Escキーを押して元に戻しておいてください。

4 リカバリ CD-ROM について

本製品にはモデルによってリカバリ CD-ROM が付属しています。
リカバリ CD-ROM は再セットアップするときに使用します。付属していたリカバリ CD-ROM は、絶対になくさないようにしてください。紛失した場合、再発行することはできません。
モデルによっては、リカバリディスクを作成することができます。

参照 詳細について
《オンラインマニュアル 9 章 2 リカバリディスクを作る》

またリカバリ CD-ROM は本製品専用です。他のパソコンで再セットアップを実行しないでください。

参照 詳細について「本章 2 再セットアップ＝リカバリをする」

2 再セットアップ=リカバリをする

本製品にプレインストールされているWindowsやアプリケーションを復元する方法について説明します。
本製品のリカバリは、ユーザ権限に関わらず、誰でも実行できます。誤って他の人にリカバリを実行されないよう、ユーザパスワードを設定しておくことをおすすめします。

参照 ユーザパスワード
《オンラインマニュアル 6章 4 パスワードセキュリティ》

1 いくつかあるリカバリ方法

リカバリには、次の方法があります。

【 リカバリCD-ROMが付属していないモデル 】

- ハードディスクドライブからリカバリをする
- 作成したリカバリディスクからリカバリをする

【 リカバリCD-ROMが付属しているモデル 】

- 付属のリカバリCD-ROMからリカバリをする

リカバリCD-ROMが付属していないモデルの場合、通常はハードディスクドライブからリカバリをしてください。
リカバリディスクからのリカバリは、ハードディスクドライブのリカバリ(再セットアップ)ツール(システムを復元するためのもの)を消してしまったり、ハードディスクからリカバリができなかった場合などに行うことをおすすめします。
リカバリディスクからリカバリをする場合は、《オンラインマニュアル 9章 2 リカバリディスクを作る》を確認して、リカバリディスクを用意してください。

2 はじめる前に

リカバリをする前に、次の準備を行ってください。

必要なもの

- 『取扱説明書』(本書)
- リカバリCD-ROM(付属しているモデルの場合)
- リカバリディスク(作成したリカバリディスクからリカバリをする場合)

＊本書よりも詳細な説明がオンラインマニュアルに記載されていますので、《オンラインマニュアル 9章 再セットアップ》もあわせてお読みください。

準備

- 必要なデータを保存する
  リカバリをすると、ハードディスクの内容は削除されます。必要なデータは、あらかじめバックアップをとってください。

  ただし、ハードディスクをフォーマットしたりシステムファイルを削除した場合や、電源を入れてもシステムが起動しなくなってからでは、バックアップをとることができません。また、リカバリを行っても、ハードディスクに保存されていたデータは復元できません。
- 電源コード以外をはずす
  マウスや増設したメモリなどを取りはずしてください。

参照 機器の取りはずし《オンラインマニュアル 4 章 周辺機器の接続》

お願い

- 市販のソフトウェアを使用してパーティションの構成を変更すると、リカバリができなくなることがあります。

3 ハードディスクからリカバリをする

＊リカバリ CD-ROM が付属していないモデルのみ

ハードディスクのリカバリツールでは、次のメニューのなかからリカバリ方法を選択することができます。あらかじめリカバリ方法を決めておくとスムーズに操作できます。

■ ご購入時の状態に復元 ■

ハードディスクをパソコンを購入したときの状態に戻し、購入時にプレインストールされていたシステムとアプリケーションを復元します。購入後に作成したデータなどは消去されます。

■ パーティションサイズを変更せずに復元 ■（推奨）

パーティションサイズを変更して使用していた場合、そのパーティションの構造を保ったままシステムを復元します。C ドライブに保存されていたデータは消去され、購入時の状態に戻りますが、その他のドライブに保存されていたデータは、そのまま残ります。ただし、BIOS 情報やコンピュータウイルスなどの影響でデータが壊れている場合、C ドライブ以外の領域にあるデータも使えないことがあります。

■ パーティションサイズを指定して復元 ■

C ドライブ（ハードディスク）のサイズを指定して復元することができます。C ドライブ以外のハードディスクの領域は一つの領域になり、そこに保存されていたデータは消去されます。

メモ

- どのメニューを選択しても、C ドライブにはリカバリツールから購入時と同じシステムが復元されます。

ここでは、「パーティションサイズを変更せずに復元」する方法を例にして説明します。

1 パソコンの電源を切る

2 AC アダプタと電源コードを接続する

3 キーボードの0（ゼロ）キーを押しながら、パソコンの電源を入れる

ユーザパスワードを設定している場合は、「Password =」と表示されます。ユーザパスワードを入力してEnterキーを押してください。
［復元方法の選択］画面が表示されます。

4 ［初期インストールソフトウェアの復元］をチェックし、［次へ］ボタンをクリックする

［ハードディスク上の全データの消去］は、パソコンを廃棄または譲渡する場合など、個人情報漏洩を防ぐために、ハードディスクのデータをすべて消去するためのものです。通常は実行しないでください。実行すると、ハードディスク上にある、リカバリツールの領域以外のすべてのデータが削除されます。

参照 ハードディスクの消去について
「8 章 4-❷-4 ハードディスクの内容をすべて消去する」

5 ［パーティションサイズを変更せずに復元］をチェックし、［次へ］ボタンをクリックする

6 ［次へ］ボタンをクリックする

復元が実行されます。
処理を中止する場合は、［キャンセル］ボタンをクリックしてください。
［パーティションを初期化しています。しばらくお待ちください。］画面が表示されます。
長い時間表示される場合がありますが、画面が切り替わるまでお待ちください。

リカバリの経過に従い、画面が変わります。
復元が完了すると、終了画面が表示されます。

7 ［終了］ボタンをクリックする

システムが再起動し、［Microsoft Windows へようこそ］画面が表示されます。

8 Windows のセットアップを行う

参照 詳細について「1 章 2 Windows のセットアップ」

メモ

- 一部のアプリケーションは、リカバリ後にアプリケーションのインストールをする必要があります。

参照 詳細について「本章 3-❶ アプリケーションを再インストールする」

購入後に変更した設定がある場合は、Windows のセットアップ後に、もう 1 度設定をやり直してください。また、周辺機器の接続、購入後に追加したアプリケーションのインストールも、Windows のセットアップ後に行ってください。

参照 周辺機器の接続 《オンラインマニュアル 4 章 周辺機器の接続》

4 リカバリディスクからリカバリをする

＊リカバリ CD-ROM が付属していないモデルのみ

作成したリカバリディスクでは、次のメニューの中からリカバリ方法を選択することができます。あらかじめリカバリ方法を決めておくとスムーズに操作できます。

■ ご購入時の状態に復元 ■

ハードディスクをパソコンを購入したときの状態に戻し、購入時にプレインストールされていたシステムとアプリケーションを復元します。購入後に作成したデータなどは消去されます。

■ Windows パーティションのみに復元 ■

ハードディスク全体を 1 つのパーティション（C ドライブのみ）にするため、全領域を使用できるようになります。なお、リカバリツールの領域は消去され、復元されません。購入時にプレインストールされていたシステムとアプリケーションを復元します。また購入後に作成したデータなどは消去されます。

■ パーティションサイズを変更せずに復元 ■

パーティションサイズを変更して使用していた場合、そのパーティションの構造を保ったままシステムを復元します。C ドライブに保存されていたデータは消去され、購入時の状態に戻りますが、その他のドライブに保存されていたデータは、そのまま残ります。

■ パーティションサイズを指定して復元 ■

C ドライブ（ハードディスク）のサイズを指定して復元することができます。C ドライブ以外のハードディスクの領域は 1 つの領域になり、そこに保存されていたデータとリカバリツールの領域は消去されます。

メモ

- どのメニューを選択しても、C ドライブにはリカバリツールから購入時と同じシステムが復元されます。

1 AC アダプタと電源コードを接続する

2 リカバリディスクをセットして、パソコンの電源を切る

リカバリディスクが複数枚ある場合は、「ディスク 1」からセットしてください。

3 キーボードの F12 キーを押しながら、パソコンの電源を入れる

ユーザパスワードを設定している場合は、「Password= 」と表示されます。ユーザパスワードを入力して Enter キーを押してください。

4 → または ← キーで CD のアイコンにカーソルを合わせ、Enter キーを押す

［復元方法の選択］画面が表示されます。

5 ［初期インストールソフトウェアの復元］をチェックし、［次へ］ボタンをクリックする

［ハードディスク上の全データの消去］は、パソコンを廃棄または譲渡する場合など、個人情報漏洩を防ぐために、ハードディスクのデータを完全に消去するためのものです。通常は実行しないでください。実行すると、ハードディスク上にある、すべてのデータが削除されます。

参照 ハードディスクの消去について
「8 章 4-❷-4 ハードディスクの内容をすべて消去する」

6 ［パーティションサイズを変更せずに復元］をクリックし、［次へ］ボタンをクリックする

メモ

- 「ご購入時の状態に復元」と「パーティションサイズを変更せずに復元」を選択した場合は、リカバリツールの領域が確保されているため、ハードディスクの 100% を使用することができません。

7 ［次へ］ボタンをクリックする

復元が実行されます。
処理を中止する場合は、［キャンセル］ボタンをクリックしてください。

［パーティションを初期化しています。しばらくお待ちください。］画面が表示されます。
長い時間表示される場合がありますが、画面が切り替わるまでお待ちください。
リカバリの経過に従い、画面が変わります。
リカバリディスクが複数枚ある場合、画面の指示に従って入れ替えてください。
復元が完了すると、終了画面が表示されます。

8 ［終了］ボタンをクリックする

自動的にディスクトレイが開きます。リカバリディスクを取り出してください。
システムが再起動し、［Microsoft Windows へようこそ］画面が表示されます。

9 Windows のセットアップを行う

参照 詳細について「1 章 2 Windows のセットアップ」

メモ

- 一部のアプリケーションは、リカバリ後にアプリケーションのインストールをする必要があります。

参照 詳細について「本章 3-❶ アプリケーションを再インストールする」

購入後に変更した設定がある場合は、Windows のセットアップ後に、もう 1 度設定をやり直してください。また、周辺機器の接続、購入後に追加したアプリケーションのインストールも、Windows のセットアップ後に行ってください。

参照 周辺機器の接続 《オンラインマニュアル 4 章 周辺機器の接続》

5 リカバリ CD-ROM からリカバリをする

＊リカバリ CD-ROM が付属しているモデルのみ

付属のリカバリ CD-ROM では、次のメニューのなかからリカバリ方法を選択することができます。あらかじめリカバリ方法を決めておくとスムーズに操作できます。

■ ご購入時の状態に復元 ■

ハードディスクをパソコンを購入したときの状態に戻し、購入時にプレインストールされていたシステムとアプリケーションを復元します。購入後に作成したデータなどは消去されます。

■ パーティションサイズを変更せずに復元 ■（推奨）

パーティションサイズを変更して使用していた場合、そのパーティションの構造を保ったままシステムを復元します。C ドライブに保存されていたデータは消去され、購入時の状態に戻りますが、その他のドライブに保存されていたデータは、そのまま残ります。ただし、BIOS 情報やコンピュータウイルスなどの影響でデータが壊れている場合、C ドライブ以外の領域にあるデータも使えないことがあります。

■ パーティションサイズを指定して復元 ■

C ドライブ（ハードディスク）のサイズを指定して復元することができます。C ドライブ以外のハードディスクの領域は一つの領域になり、そこに保存されていたデータは消去されます。

メモ

- どのメニューを選択しても、C ドライブにはリカバリツールから購入時と同じシステムが復元されます。

ここでは、「パーティションサイズを変更せずに復元」する方法を例にして説明します。

1 AC アダプタと電源コードを接続する

2 リカバリ CD-ROM をセットして、パソコンの電源を切る

リカバリ CD-ROM が複数枚ある場合は、「ディスク 1」からセットしてください。

3 キーボードの F12 キーを押しながら、パソコンの電源を入れる

ユーザパスワードを設定している場合は、「Password= 」と表示されます。ユーザパスワードを入力して Enter キーを押してください。

4 (→)または(←)キーでCDのアイコンにカーソルを合わせ、(Enter)キーを押す

［復元方法の選択］画面が表示されます。

5 ［初期インストールソフトウェアの復元］をチェックし、［次へ］ボタンをクリックする

［ハードディスク上の全データの消去］は、パソコンを廃棄または譲渡する場合など、個人情報漏洩を防ぐために、ハードディスクのデータを完全に消去するためのものです。通常は実行しないでください。実行すると、ハードディスク上にある、すべてのデータが削除されます。

参照 ハードディスクの消去について
「8章4-❷-4 ハードディスクの内容をすべて消去する」

6 ［パーティションサイズを変更せずに復元］をクリックし、［次へ］ボタンをクリックする

7 ［次へ］ボタンをクリックする

復元が実行されます。
処理を中止する場合は、［キャンセル］ボタンをクリックしてください。

［パーティションを初期化しています。しばらくお待ちください。］画面が表示されます。
長い時間表示される場合がありますが、画面が切り替わるまでお待ちください。
リカバリの経過に従い、画面が変わります。
リカバリCD-ROMが複数枚ある場合、画面の指示に従って入れ替えてください。
復元が完了すると、終了画面が表示されます。

8 ［終了］ボタンをクリックする

自動的にディスクトレイが開きます。リカバリCD-ROMを取り出してください。
システムが再起動し、［Microsoft Windowsへようこそ］画面が表示されます。

9 Windowsのセットアップを行う

参照 詳細について「1章2 Windowsのセットアップ」

メモ

- 一部のアプリケーションは、リカバリ後にアプリケーションのインストールをする必要があります。

参照 詳細について「本章 3-❶ アプリケーションを再インストールする」

購入後に変更した設定がある場合は、Windows のセットアップ後に、もう 1 度設定をやり直してください。また、周辺機器の接続、購入後に追加したアプリケーションのインストールも、Windows のセットアップ後に行ってください。

参照 周辺機器の接続 《オンラインマニュアル 4 章 周辺機器の接続》

6 Windows セットアップのあとは

1 Office や OneNote を再インストールする

Microsoft Office および Microsoft Office OneNote は、以上の手順では復元されません。付属の CD-ROM で再インストールしてください。

参照 詳細について「本章 3-❷ Office を再インストールする」

ここまでで、購入時の状態の復元は完了です。パーティションの設定を変更してシステムを復元した場合のみ、次項［2］の操作を行ってください。

2 パーティションを設定する

パーティションの設定を変更して再セットアップした場合は、再セットアップ終了後すみやかに次の設定を行ってください。

お願い

Windows の「ディスクの管理」を使用すると、「HDDRECOVERY」というボリュームのパーティションが表示されます。このパーティションには再セットアップするためのデータが保存されていますので、削除しないでください。削除した場合、再セットアップはできなくなります。

1 コンピュータの管理者になっているユーザアカウントでログオンする

2 ［コントロールパネル］を開き、［ パフォーマンスとメンテナンス］をクリックする

3 ［ 管理ツール］をクリックする

4 ［コンピュータの管理］をダブルクリックする

5 画面左の［ディスクの管理］をクリックする

設定していないパーティションは［未割り当て］と表示されます。

6 ［ディスク 0］の［未割り当て］の領域を右クリックする

7 表示されるメニューから［新しいパーティション］をクリックする

［新しいパーティションウィザード］が起動します。

8 ［次へ］ボタンをクリックし、ウィザードに従って設定する

次の項目を設定します。

・パーティションの種類
・パーティションサイズ
・ドライブ文字またはパスの割り当て
・フォーマット
・ファイルシステム

9 設定内容を確認し、［完了］ボタンをクリックする

フォーマットが開始されます。

パーティションの状態が［正常］と表示されれば完了です。

詳細については「コンピュータの管理」のヘルプを参照してください。

【 ヘルプの起動 】

メニューバーから［ヘルプ］→［トピックの検索］をクリックしてください。

3 アプリケーションを再インストールする

アプリケーションを一度削除してしまっても、必要なアプリケーションやドライバを指定して再インストールすることができます。

Office 搭載モデルの場合、Microsoft Office および Office OneNote を、システムの復元後に付属の CD-ROM で再インストールする必要があります。「本節 ❷ Office を再インストールする」を確認してください。

1 アプリケーションを再インストールする

再セットアップ後にアプリケーションを再インストールする方法を説明します。

【 必要なもの 】

- 『取扱説明書』（本書）

アプリケーションによっては、再インストール時に ID 番号などが必要です。あらかじめ確認してから、再インストールすることを推奨します。

すでにインストールされているアプリケーションを再インストールするときは、コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」または各アプリケーションのアンインストールプログラムを実行して、アンインストールを行ってください。
アンインストールを行わずに再インストールを実行すると、正常にインストールできない場合があります。ただし、上記のどちらの方法でもアンインストールが実行できないアプリケーションは、上書きでインストールしても問題ありません。

1 操作手順

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をクリックする

2 表示されるメッセージに従ってインストールを行う

［ファイルのダウンロード］画面が表示された場合は、［実行］ボタンをクリックしてください。

2 Office を再インストールする

＊ Office 搭載モデルのみ

文書作成ソフトの「Word」や表計算ソフト「Excel」を使いたい場合は Microsoft Office をインストールする必要があります。

ここでは、Microsoft Office Personal 2007、Microsoft Office Professional 2007、Microsoft Office Personal Edition 2003、Microsoft Office Professional Enterprise Edition 2003 と Microsoft Office OneNote 2007、Microsoft Office OneNote 2003 を再インストールする方法を説明します。

【 必要なもの 】

付属のパッケージに、必要なものが一式入っています。
モデルによって付属しているパッケージは異なります。

「Microsoft® Office Personal 2007」一式*

＊モデルによっては、「Microsoft® Office PowerPoint® 2007」一式も付属しています。

「Microsoft® Office Professional 2007」一式

「Microsoft® Office Personal Edition 2003」一式

「Microsoft® Office Professional Enterprise Edition 2003」一式

「Microsoft® Office OneNote® 2007」一式

「Microsoft® Office OneNote® 2003」一式

再インストールした場合、ライセンス認証が必要になります。

再インストール方法とセットアップ方法

詳細は、それぞれのパッケージに付属の『スタート ガイド』または『お使いになる前に』を確認してください。

【 Service Pack2 について 】

添付のCDからMicrosoft Office Personal Edition 2003、HomeStyle+、Microsoft Office Professional Enterprise Edition 2003、Microsoft Office OneNote 2003を再インストールした場合、Service Pack2は組み込まれません。

［スタート］→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］から再インストールしてください。

参照 アプリケーションの再インストール
「本節 ❶ アプリケーションを再インストールする」

【「手書き入力パッド」を使用するとき 】

Microsoft Office Personal Edition 2003またはMicrosoft Office Professional Enterprise Edition 2003を再インストールした場合、Microsoft Office WordやMicrosoft Office Excelなどのアプリケーションを使用するときに、IMEツールバーの［手書き］ボタン -［手書き入力パッド］をクリック（または［手書き入力パッド］ボタンをクリック）すると、「言語の入力システムが正常にインストールされていることを確認してください」という警告メッセージが表示される場合があります。

言語の入力システム（Microsoft IME）は正常にインストールされており、動作上の問題はありませんので、「今後、このメッセージを表示しない」のチェックボックスをチェックして、［OK］ボタンをクリックしてください。

8章

こんなときは

日常の取り扱いやお手入れ、アプリケーションの問い合わせ先、保守や修理などアフターケアを行う保守サービスを利用するときについて。
また、バッテリパックの廃棄やパソコン本体の廃棄・譲渡を行う場合について知っておいて欲しいことなどを説明しています。

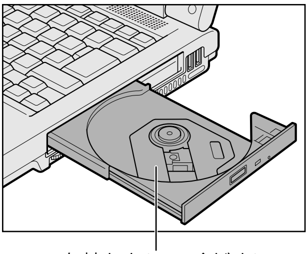
1 パソコンを持ち運ぶときは

パソコンを持ち運ぶときは、誤動作や故障を起こさないために、次のことを必ず守ってください。

- 電源を必ず切り、AC アダプタを取りはずしてください。電源を入れた状態、またはスタンバイ状態で持ち運ばないでください。
  電源を切って AC アダプタを取りはずした後に、すべての LED が消灯していることを確認してください。
- 急激な温度変化（寒い屋外から暖かい屋内への持ち込みなど）を与えないでください。結露が発生し、故障の原因となる可能性があります。やむなく急な温度変化を与えてしまった場合は、数時間たってから電源を入れるようにしてください。
- 外付けの装置やケーブルは取りはずしてください。また、CD ／ DVD がセットされている場合は取り出してください。
- パソコンを持ち運ぶときは、不安定な持ちかたをしないでください。
- パソコンを持ち運ぶときは、突起部分を持って運ばないでください。

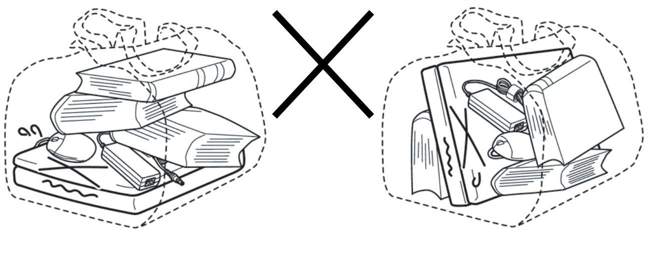
  【例】

  ディスクトレイ

  ここを持たないでください。

- 各スロットに、メディアやカードなどがセットされている場合は取り出してください。セットしたまま持ち歩くと、カードが壁や床とぶつかり、故障するおそれがあります。
- 落としたり、強いショックを与えないでください。
- ディスプレイを閉じてください。
- パソコンをカバンなどに入れて持ち運ぶときは、パソコン上面が AC アダプタやマウス、携帯電話、または、硬い本などの荷物で局所的に圧迫されるような入れ方をしないでください。
  液晶画面の一部にシミ状のムラが発生するなど、破損・故障の原因となり、修理が必要となる場合があります。



2 日常の取り扱いとお手入れ

⚠注 意

● お手入れの前には、必ずパソコンやパソコンの周辺機器の電源を切り、ACアダプタの電源プラグをコンセントから抜くこと
電源を切らずにお手入れをはじめると、感電するおそれがあります。

お願い

機器に強い衝撃や外圧を与えないように注意してください。製品には精密部品を使用しておりますので、強い衝撃や外圧を加えると部品が故障するおそれがあります。

日常の取り扱いでは、次のことを守ってください。

1 パソコン本体／ACアダプタ／電源コード

● 『安心してお使いいただくために』に、パソコン本体、ACアダプタ、電源コードを使用するときに守ってほしいことが記述されています。
あらかじめその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。
● 機器の汚れは、柔らかくきれいな乾いた布などでふき取ってください。汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼってからふきます。
中性洗剤、揮発性の有機溶剤（ベンジン、シンナーなど）、化学ぞうきんなどは使用しないでください。
● 薬品や殺虫剤などをかけないでください。
● ディスプレイは静かに閉じてください。
● 使用できる環境は次のとおりです。＊1
温度5～35℃、湿度20～80％
＊1 使用環境条件は、本製品の動作を保証する温湿度条件であり、性能を保証するものではありません。
● 次のような場所で使用や保管をしないでください。
直射日光の当たる場所／非常に高温または低温になる場所／急激な温度変化のある場所（結露を防ぐため）／強い磁気を帯びた場所（スピーカなどの近く）／ホコリの多い場所／振動の激しい場所／薬品の充満している場所／薬品に触れる場所
● 使用中に本体の底面やACアダプタが熱くなることがあります。本体の動作状況により発熱しているだけで、故障ではありません。
● 電源コードのプラグを長期間にわたってACコンセントに接続したままにしていると、プラグにホコリがたまることがあります。定期的にホコリをふき取ってください。

2 キーボード

柔らかい乾いた素材のきれいな布でふいてください。
汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼってふきます。
キーのすきまにゴミが入ったときは、エアーで吹き飛ばすタイプのクリーナで取り除きます。ゴミが取れないときは、使用している機種名を確認してから、購入店、または保守サービスに相談してください。
飲み物など液体をこぼしたときは、ただちに電源を切り、AC アダプタとバッテリパックを取りはずして、購入店、または保守サービスに相談してください。

3 タッチパッド

乾いた柔らかい素材のきれいな布でふいてください。
汚れがひどいときは、水かぬるま湯に浸した布を固くしぼってからふきます。

4 液晶ディスプレイ

画面の手入れ

- 画面の表面には偏光フィルムが張られています。このフィルムは傷つきやすいので、むやみに触れないでください。
  表面が汚れた場合は、柔らかくきれいな布で軽くふき取ってください。水や中性洗剤、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんなどは使用しないでください。
- 無理な力の加わる扱いかた、使いかたをしないでください。
  液晶ディスプレイは、ガラス板間に液晶を配向処理して注入してあります。強い力を加えると配向が乱れ、発色や明るさが変わって元に戻らなくなる場合があります。また、ガラス板を破損するおそれもあります。
- 水滴などが長時間付着すると、変色やシミの原因になるので、すぐにふき取ってください。ふき取る際は、力を入れないで軽く行ってください。

残像防止について

長時間同じ画面を表示したままにしていると、画面表示を変えたときに前の画面表示が残ることがあります。この現象を残像といいます。残像は、画面表示を変えることで徐々に解消されますが、あまり長時間同じ画面を表示すると画像が消えなくなりますので、同じ画面を長時間表示するような使いかたは避けてください。
また、次の機能を利用すると、残像防止ができます。

- スクリーンセーバーを設定する

参照 スクリーンセーバーの設定『ヘルプとサポート センター』

- 「東芝省電力」で「モニタの電源を切る」を設定する

参照 東芝省電力《オンラインマニュアル 5 章 2-❶ 東芝省電力》

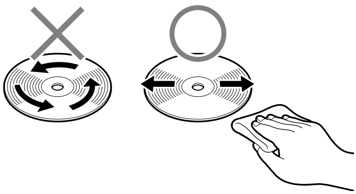
表示について

TFT カラー液晶ディスプレイは非常に高度な技術を駆使して作られております。非点灯、常時点灯などの画素（ドット）が存在することがあります（有効ドット数の割合は 99.99%以上です。有効ドット数の割合とは、「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」です。）。また、見る角度や温度変化によって色むらや明るさのむらが見える場合があります。これらは、故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

5 CD／DVD

CD ／ DVD の内容は故障の原因にかかわらず保障いたしかねます。製品を長持ちさせ、データを保護するためにも、次のことを必ず守ってください。

- 傷、汚れをつけないよう、取り扱いには十分にご注意ください。
- CD ／ DVD を折り曲げたり、表面を傷つけたりしないでください。CD ／ DVD を読み込むことができなくなります。
- CD ／ DVD を直射日光が当たるところや、極端に暑かったり寒かったりする場所に置かないでください。また、CD ／ DVD の上に重いものを置かないでください。
- CD ／ DVD は専用のケースに入れ、清潔に保護してください。
- CD ／ DVD を持つときは、外側の端か、中央の穴のところを持つようにしてください。
  データ記憶面に指紋をつけてしまうと、正確にデータが読み取れなくなることがあります。
- CD ／ DVD のデータ記憶面／レーベル面ともにラベルを張らないでください。
- CD ／ DVD のデータ記憶面に文字などを書かないでください。
- CD ／ DVD のレーベル面に文字などを書くときは、油性のフェルトペンなどを使用してください。ボールペンなどの硬いものを使用しないでください。
- CD ／ DVD が汚れたりホコリをかぶったりしたときは、乾燥した清潔な布でふき取ってください。ふき取りは円盤に沿って環状にふくのではなく、円盤の中心から外側に向かって直線状にふくようにしてください。乾燥した布ではふき取れない場合は、水か中性洗剤で湿らせた布を使用してください。ベンジンやシンナーなどの薬品は使用しないでください。



8章 こんなときは

6 フロッピーディスクドライブ

- 市販のクリーニングディスクを使って、1ヶ月に1回を目安にクリーニングしてください。

7 フロッピーディスク

フロッピーディスクは消耗品です。傷がついた場合は交換してください。
フロッピーディスクを取り扱うときには、次のことを守ってください。

- フロッピーディスクに保存しているデータは、万一故障が起こったり、消失した場合に備えて、定期的に複製を作って保管するようにしてください。
  フロッピーディスクに保存した内容の障害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- シャッター部を開けて磁性面を触らないでください。汚れると使用できなくなります。
- スピーカなど強い磁気を発するものに近づけないでください。
  記録した内容が消えるおそれがあります。
- 直射日光に当てたり、高温のものに近づけないでください。
- 本やノートなど重いものを上に置かないでください。
- 使用場所、保管場所の温度は次のとおりです。

環境	使用時	保管時
温度	5～35℃	4～53℃

- ラベルは正しい位置に張ってください。張り替えるときに重ね張りをしないでください。
- ホコリの多い場所、タバコの煙が充満している場所に置かないでください。
- 保管の際は、プラスチックケースに入れてください。
- 食べ物、タバコ、消しゴムのカスなどの近くにフロッピーディスクを置かないでください。

8 指紋センサ

指紋センサ表面が汚れている場合には、認識率が低下する可能性があります。眼鏡ふき（クリーナークロス）などのきれいな柔らかい布で軽くふき取ってからお使いください。
指紋センサ表面を強くこすらないでください。また、洗剤などは使用しないでください。故障するおそれがあります。

9 データのバックアップについて

重要な内容は必ず、定期的にバックアップをとって保存してください。
バックアップとはハードディスクやソフトウェアの故障などでファイルが使用できなくなったときのために、あらかじめファイルをフロッピーディスクやCD-R、CD-RWなどにコピーしておくことです。
本製品は次のような場合、スタンバイまたは休止状態が無効になり、本体内の記憶内容が変化し、消失するおそれがあります。

- 誤った使いかたをしたとき
- 静電気や電気的ノイズの影響を受けたとき
- 長期間使っていなかったために、バッテリ（バッテリパック、時計用バッテリ）の充電量がなくなったとき
- 故障、修理、バッテリ交換のとき
- バッテリ駆動で使用しているときにバッテリパックを取りはずしたとき
- 増設メモリの取り付け／取りはずしをしたとき

記憶内容の変化／消失については、ハードディスクやフロッピーディスクなどに保存した内容の損害については当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご承知ください。

10 デフラグ（ディスクの最適化）について

デフラグとは、ハードディスクにあるファイルを先頭から再配置して、ファイルの分割状態を解消し、連続した空き容量を増やす作業のことです。
このパソコンでは「ディスク デフラグ ツール」を使用して、ハードディスクにある断片化されたファイルやフォルダ、ハードディスクの空き容量を整理統合して、より効率的にファイルやフォルダにアクセスしたり、新しく作成するファイルやフォルダを断片化されないように保存することができます。

「ディスク デフラグ ツール」の起動方法

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［システム ツール］→［ディスク デフラグ］をクリックする

「ディスク デフラグ ツール」の使いかたについては、「ディスク デフラグ ツール」のヘルプを確認してください。

ヘルプの起動方法

1 ［ディスク デフラグ ツール］画面で、メニューバーの［操作］をクリックし、表示されたメニューから［ヘルプ］をクリックする

3 アフターケアについて

保守サービスについて

保守サービスへの相談は、『東芝 PC サポートのご案内』を確認してください。
保守・修理後はパソコン内のデータはすべて消去されます。
保守・修理に出す前に、作成したデータの他に次のデータのバックアップをとってください。

- メール
- リカバリ（再セットアップ）ツール
- 自分で作成したデータ
- メールのアドレス帳
- インターネットのお気に入り
- TPM 内部のデータ　など

有寿命部品について

本製品には、有寿命部品が含まれています。有寿命部品の交換時期の目安は、使用頻度や使用環境（温湿度など）等の条件により異なりますが、本製品を通常使用した場合、1 日に約 8 時間、1ヵ月で 25 日のご使用で約 5 年です。上記目安はあくまで目安であって、故障しないことや無料修理をお約束するものではありません。なお、24 時間を超えるような長時間連続使用等、ご使用状態によっては早期にあるいは製品の保証期間内でも部品交換（有料）が必要となります。

【 対象品名 】

本体液晶ディスプレイ*1、ハードディスクユニット、CD/DVD ドライブ*2、フロッピーディスクドライブ*2、キーボード、タッチパッド、マウス*3、冷却用ファン、ディスプレイ開閉部（ヒンジ）*4、AC アダプタ

＊1　工場出荷時から画面の明るさが半減するまでの期間
＊2　それぞれ内蔵されているモデルが対象です
＊3　付属しているモデルが対象です
＊4　液晶ディスプレイを開いたときに固定するための内部部品です

社団法人　電子情報技術産業協会
「パソコンの有寿命部品の表記に関するガイドライン」について
http://it.jeita.or.jp/perinfo/committee/pc/0503parts/index.html

消耗品について

【 バッテリパック 】

バッテリパック（充電式リチウムイオン電池）は消耗品です。
長時間の使用により消耗し、充電機能が低下します。
充電機能が低下した場合は、次のバッテリパック（別売り）と交換してください。

- バッテリパック PABAS073
- バッテリパック PABAS075

付属品について

付属品（バッテリパック・AC アダプタなど）については、「東芝パソコンシステム・オンラインショップ」でご購入いただけます。

【 東芝パソコンシステム・オンラインショップ 】

TEL ： 043-277-5025
URL ： http://shop.toshiba-tops.co.jp

保守部品（補修用性能部品）の最低保有期間

保守部品（補修用性能部品）とは、本製品の機能を維持するために必要な部品です。
本製品の保守部品の最低保有期間は、製品発表月から６年６ヵ月です。

4 廃棄・譲渡について

1 バッテリパックについて

貴重な資源を守るために、不要になったバッテリパックは廃棄しないで、充電式電池リサイクル協力店へ持ち込んでください。
その場合、ショート防止のため電極にセロハンテープなどの絶縁テープを張ってください。

Li-ion

【 バッテリパック（充電式電池）の回収、リサイクルについてのお問い合わせ先 】

有限責任中間法人 JBRC
TEL：03-6403-5673
URL：http://www.jbrc.com

2 パソコン本体について

本製品を廃棄するときは、家庭と企業では廃棄方法が異なります。次の要領にて処理してください。
（本製品は、LCD 表示部に使用している蛍光管に水銀が含まれています。）

1 企業でパソコンを使用しているお客様へ

本製品を廃棄するときは、産業廃棄物として扱われます。
東芝は、廃棄品の回収と適切な再使用・再利用処理を有償で実施しております。
下記へお問い合わせください。

【 問い合わせ先 】

東芝パソコンリサイクルセンター
電話番号 ： 045-510-0255
受付時間 ： 9：00 ～ 17：00（土・日・祝日、当社指定の休日を除く）
FAX ： 045-506-7983（24 時間受付）

【 東芝ホームページでご紹介 】

URL：http://dynabook.com/pc/eco/recycle.htm

2 家庭でパソコンを使用しているお客様へ

本製品を廃棄するときは、東芝の家庭系使用済みパソコン回収受付窓口へお申し込みください。廃棄品の回収と適切な再使用・再利用処理を有償で実施いたします。

【 パソコン回収受付窓口 】

東芝 dynabook リサイクルセンタ

【 回収申込方法 】

- 東芝ホームページよりお申し込みの場合
  URL：http://dynabook.com/pc/eco/recycle.htm（24 時間受付）
- 電話にてお申し込みの場合

東芝 dynabook リサイクルセンタ
TEL　　　：043-303-0200
受付時間：10：00 〜 17：00（土・日・祝日、当社指定の休日を除く）
FAX　　　：043-303-0202（24 時間受付）

【 回収・再資源化対象機器 】

ノートパソコン、デスクトップパソコン（本体）、液晶ディスプレイ／液晶一体型パソコン、ブラウン管（CRT）ディスプレイ／ブラウン管（CRT）一体型パソコン

＊出荷時に付属していた標準添付品（マウス、キーボード、スピーカ、ケーブルなど）が同時に排出された場合は、パソコンの付属品として併せて回収します。ただし、周辺機器（プリンタ他）、マニュアル、CD-ROM などの媒体は回収の対象外です。

3 パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意

最近、パソコンは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらのパソコンに使われているハードディスクという記憶装置に、お客様の重要なデータが記録されています。
したがって、パソコンを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータ内容を消去するということが必要となります。
ところが、このハードディスクに書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。

「データを消去する」という場合、一般に

◆ データを「ごみ箱」に捨てる
◆「削除」操作を行う
◆「ごみ箱を空にする」コマンドを使って消す
◆ ソフトウェアで初期化（フォーマット）する
◆ 再セットアップ（リカバリ）を行い、購入時の状態に戻す

などの作業しますが、これらの作業では、ハードディスク上に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際はデータは見えなくなっているだけの状態です。
つまり、一見消去されたように見えますが、Windows などの OS のもとで、それらのデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、実際のデータは、まだ残っているのです。
したがって、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、ハードディスク内の重要なデータが読みとられ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。
お客様が、廃棄・譲渡などを行う際に、ハードディスク内の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、お客様の責任において消去することが非常に重要となります。消去するためには、標準添付しているハードディスクデータ削除機能や市販されている専用ソフトウェア、有償サービスの利用や、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁気的に破壊して、読めなくすることをお勧めします。
なお、ハードディスク上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなくパソコンを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があるため、十分な確認を行う必要があります。

本製品では、パソコン上のデータをすべて消去することができます。

参照 「本項 4 ハードディスクの内容をすべて消去する 」

この機能は Windows などの OS によるデータ消去や初期化とは違い、ハードディスクの全領域にデータを上書きするため、データが復元されにくくなります。
ただし、本機能を使用してデータを消去した場合でも、特殊な装置の使用によりデータを復元される可能性はゼロではありません。あらかじめご了承ください。

データ消去については、次のホームページも参照してください。
URL：http://dynabook.com/pc/eco/haiki.htm

4 ハードディスクの内容をすべて消去する

パソコン上のデータは、削除操作をしても実際には残っています。普通の操作では読み取れないようになっていますが、特殊な方法を実行すると削除したデータでも再現できてしまいます。そのようなことができないように、パソコンを廃棄または譲渡する場合など、他人に見られたくないデータを読み取れないように、消去することができます。
なお、ハードディスクに保存されている、これまでに作成したデータやプログラムなどはすべて消失します。これらを復元することはできませんので、注意してください。

操作手順

ハードディスクの内容を削除するには、ハードディスクのリカバリツール、付属のリカバリ CD-ROM、または作成したリカバリディスクを使用します。

ハードディスクのリカバリツールを使用すると、ハードディスク内のデータはすべて消去されますが、リカバリツールは残ります。
作成したリカバリディスクまたは付属のリカバリ CD-ROM を使用すると、ハードディスク内のデータと共にリカバリツールも消去されます。

ここでは、ハードディスクのリカバリツールから行う方法を例にして説明します。
リカバリディスクまたは付属のリカバリ CD-ROM から行う場合は、手順 1 の前にディスク 1 をセットしてください。

1 パソコンの電源を切る

2 AC アダプタと電源コードを接続する

3 キーボードの0（ゼロ）キーを押しながら、パソコンの電源を入れる

リカバリディスクまたは付属のリカバリ CD-ROM をセットしている場合は、キーボードのF12キーを押しながら、パソコンの電源を入れます。
その後、→または←キーでCDのアイコンにカーソルを合わせ、Enterキーを押してください。
ユーザパスワードを設定している場合は、
「Password =」と表示されます。ユーザパスワードを入力して、Enterキーを押してください。
［復元方法の選択］画面が表示されます。

8章 こんなときは

4 **［ハードディスク上の全データの消去］をチェックし、［次へ］ボタンをクリックする**

消去方法を選択する画面が表示されます。

5 **目的に合わせて、［標準データの消去］または［機密データの消去］をチェックし、［次へ］ボタンをクリックする**

「通常は［標準データの消去］を選択してください。データを読み取れなくなります。

より確実にデータを消去するためには、［機密データの消去］を選択してください。数時間かかりますが、データは消去されます。

［ハードディスクの内容は、すべて消去されます。］画面が表示されます。

6 **［次へ］ボタンをクリックする**

処理を中止する場合は、［キャンセル］ボタンをクリックしてください。

消去が実行されます。

消去が完了すると、終了画面が表示されます。

7 **［終了］ボタンをクリックする**

リカバリディスクまたは付属のリカバリ CD-ROM から行った場合は、自動的にディスクトレイが開きます。ディスクを取り出してください。

TPM の内容を消去する

TPM を使用している場合、ハードディスクドライブだけでなく、TPM 内部のデータを削除する必要があります。登録情報など、セキュリティに関する重要な情報が含まれているため、必ずデータを削除してください。

参照 TPM『Trusted Platform Module 取扱説明書』

5 問い合わせ先

＊2006年10月現在の内容です。
各社の事情で、受付時間などが変更になる場合があります。

本製品に添付されているアプリケーションやプロバイダの問い合わせ先は、次のとおりです。各アプリケーションのユーザ登録については、それぞれの問い合わせ先まで問い合わせてください。

1 OSの問い合わせ先

Windowsセキュリティセンターなど、Microsoft® Windows® XP Service Pack 2セキュリティ強化機能搭載の新規機能についてのサポート情報は、下記のホームページをご覧ください。

http://support.microsoft.com/

Windows XPに関する一般的なお問い合わせは、東芝PCあんしんサポートになります。

※当社製品でWindows Vista™をご使用になる上での注意・制限事項を含めた最新情報は、dynabook.comサポート情報（http://dynabook.com/assistpc/）で順次公開をします。

2 アプリケーションの問い合わせ先

Adobe Reader／ConfigFree／Fn-esse／Internet Explorer／InterVideo WinDVD／Java™ 2 Runtime Environment／Microsoft Office OneNote／Outlook Express／PadTouch／PC引越ナビ／TOSHIBA Smooth View／TPM／Windows Media Player／指紋認証ユーティリティ／東芝HWセットアップ／東芝PC診断ツール／東芝省電力／東芝パスワードユーティリティ／東芝ピークシフトコントロール／内蔵モデム用地域選択ユーティリティ
東芝（東芝PCあんしんサポート） 全国共通電話番号 ： 0120-97-1048（通話料・電話サポート料無料） おかけいただくと、アナウンスが流れます。 アナウンスに従って操作してください。 技術的な質問、お問い合わせは、アナウンスの後で1をプッシュしてください。 技術相談窓口 受付時間 ： 9:00～19:00（年中無休） [電話番号はおまちがえないよう、ご確認の上おかけください] 海外からの電話、携帯電話、PHS、または直収回線など回線契約によってはつながらない場合がございます。その場合はTEL 043-298-8780（通話料お客様負担）にお問い合わせください。 システムメンテナンスのため、サポートを休止させていただく場合がございます。 日程は、dynabook.com「サポート情報」→「東芝PCあんしんサポート」（http://dynabook.com/assistpc/anshin/index_j.htm）にてお知らせいたします。

Microsoft Office Access／Microsoft Office Excel／ Microsoft Office Home Style+／Microsoft Office InfoPath／ Microsoft Office Outlook／Microsoft Office PowerPoint／ Microsoft Office Publisher／Microsoft Office Word
マイクロソフト 無償サポート 〈TEL〉 TEL：東京：03-5354-4500 大阪：06-6347-4400 ※次の情報をお手元に用意してご連絡ください。 郵便番号、ご住所、お名前、電話番号、お問い合わせ製品のプロダクトID 詳細は、製品添付の「パッケージ内容一覧」をご覧ください。 〈受付時間・お問い合わせ回数〉 ●セットアップ、インストールに関するお問い合わせ 受付時間：9:30～12:00、13:00～19:00（平日） 10:00～17:00（土曜日、日曜日） （マイクロソフト株式会社休業日、年末年始、祝祭日を除く。日曜日が祝祭日の場合は営業いたします。その場合、振替休日は休業させていただきます） 回数：指定はございません。 ●基本操作に関するお問い合わせ 受付時間：9:30～12:00、13:00～19:00（平日） 10:00～17:00（土曜日） （マイクロソフト株式会社休業日、年末年始、祝祭日を除く） 無償サポート回数：4インシデント（4件のご質問） ＊Microsoft Office Personal 2007とMicrosoft Office PowerPoint 2007がプレインストールされているモデルの場合、Microsoft Office PowerPoint 2007は2インシデントになります。 お問い合わせに関する詳細は、Microsoft Officeのスタートガイドをご覧ください。 〈ホームページ〉 URL：http://support.microsoft.com/ ※電話サポート（無償）もしくは、製品サポートからお問い合わせになる製品をお選びください。 備考：マイクロソフトサポートWeb上から直接インターネットを通じてお問い合わせも可能です。 答えてねっと：http://www.kotaete-net.net/

ウイルスバスター
ウイルスバスターサービスセンター 受付時間　：9:30～17:30 ＴＥＬ　：0570-008326 ホームページ：http://www.trendmicro.co.jp/support/vb/index.asp
DLA for TOSHIBA／RecordNow! Basic for TOSHIBA／Recovery Disc Creator
ソニック・サポートセンター 受付時間　：10:00～12:00、13:00～17:00 （土・日・祝祭日・年末年始・特別行事日を除く） ＴＥＬ　：03-5232-6400 お問い合わせは、ソニック・ソルーションズのサポートページのメールサポートフォームより質問内容をお送りください。 ホームページ：http://www.sonicjapan.co.jp/support/index.html
gooスティック
goo事務局 受付時間　：10:00～17:00（土・日・祝日・年末年始を除く） ＴＥＬ　：045-848-4190 E-mail　：info@goo.ne.jp ホームページ：http://stick.goo.ne.jp

付録

本製品の仕様や、技術基準適合などについて記しています。

1　本製品の仕様

仕様についての詳細は、別紙の『dynabook Satellite J62 シリーズ製品仕様表』、『dynabook Satellite J61 シリーズ製品仕様表』、『dynabook Satellite J60 シリーズ製品仕様表』のいずれかを参照してください。

1　内蔵モデムについて

モデムボードを取り付けることによって、モデム機能を使用できます。購入したモデルによって、モデムが内蔵されています。モデム内蔵モデルでない場合は、モジュラーコネクタがカバーで覆われ、使用できません。あらかじめモデムボードが取り付けられているモデルの場合は、取り付け／取りはずしの作業は必要ありません。また、モデムボードを取りはずした状態で本製品を使用しないでください。

⚠警 告

- 本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないこと
  内部には高電圧部分が数多くあり、万一触ると、感電ややけどのおそれがあります。
- 取りはずしたネジは、幼児の手の届かないところに保管すること
  誤って飲み込むと窒息のおそれがあります。万一、飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談してください。

⚠注 意

- モデムボードの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、AC アダプタのプラグを抜き、バッテリパックを取りはずしてから作業を行うこと
  電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電､故障のおそれがあります。
- 電源を切った直後には、モデムボードの取り付け／取りはずしを行わないこと
  内部が高温になっており、やけどのおそれがあります。電源を切った後 30 分以上たってから、行ってください。
- パソコン内部にネジや異物を残さないこと
  火災、発煙のおそれがあります。

お願い

- モデムボードの取り付け／取りはずし、PTTラベルの確認以外の目的でパソコン本体のモデムカバーを開けないでください。
- モデムボードを取りはずした状態で本製品を使用しないでください。故障の原因になります。
- モデムボードを強く押したり、曲げたり、落としたりしないでください。
- キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

モデムボードの取り付け／取りはずし

【 取り付け 】

① データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
② パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
③ ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリパックを取りはずす
④ 本体裏側の内蔵モデムカバーのネジ 2 本をゆるめ、カバーを取りはずす
⑤ モデムボードのネジ 2 本を取りはずす
⑥ 接続コードをモデムボードに取り付ける
⑦ モデムボードをパソコン本体に取り付ける
⑧ 手順⑤ではずしたモデムボードのネジ 2 本をとめる
⑨ 手順④ではずしたカバーをはめ、ネジ 2 本をとめる
⑩ バッテリパックを取り付ける

【 取りはずし 】

① データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
② パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
③ ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリパックを取りはずす
④ 本体裏側の内蔵モデムカバーのネジ 2 本をゆるめ、カバーを取りはずす
規格（PTT）ラベルを確認することができます。
⑤ モデムボードのネジ 2 本を取りはずす
⑥ 接続コードをモデムボードから取りはずす
⑦ モデムボードをパソコン本体から取りはずす
⑧ 手順⑤ではずしたモデムボードのネジ 2 本をとめる
⑨ 手順④ではずしたカバーをはめ、ネジ 2 本をとめる
⑩ バッテリパックを取り付ける

2 回復コンソール

Windows XP に重大なエラーが発生して起動できないような場合、回復コンソールを使って起動環境の復元やファイルの救出などを行うことができます。
回復コンソールは正常に機能しているときにインストールする必要があります。
詳しい使用方法は［スタート］→［ヘルプ］をクリックして、『ヘルプとサポートセンター』で「回復コンソール」を検索し、確認してください。

2 技術基準適合について

瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人　電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

参照 《オンラインマニュアル 8 章 2 Q&A 集
その他 - Q. パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい》

高調波対策について（付属の AC アダプタの出力電力値が 60W の場合）

（社）電子情報技術産業協会情報処理機器
高調波電流抑制対策実行計画に基づく定格入力電力値：72W

FCC information

Product name : dynabook Satellite J62 series
dynabook Satellite J61 series
dynabook Satellite J60 series

FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- ❑ Reorient or relocate the receiving antenna.
- ❑ Increase the separation between the equipment and receiver.
- ❑ Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- ❑ Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING : *Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by TOSHIBA is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's RGB connector, PRT connector, USB connector and Microphone jack. And,a cable with ferrite core must be used between the external devices and the computer's modular jack.Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by TOSHIBA or parties authorized by TOSHIBA could void the user's authority to operate the equipment.*

FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Contact

Address : TOSHIBA America Information Systems, Inc.
9740 Irvine Boulevard
Irvine, California 92618-1697

Telephone : (949) 583-3000

TOSHIBA

EU Declaration of Conformity

TOSHIBA declares, that the product: PSJ60 conforms to the following Standards:

Supplementary Information : “The product complies with the requirements of the Low Voltage Directive 73/23/EEC, the EMC Directive 89/336/EEC and/or the R&TTE Directive 1999/5/EC.”

This product is carrying the CE-Mark in accordance with the related European Directives. Responsible for CE-Marking is TOSHIBA Europe, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany.

＊モデム内蔵モデルのみ

モデム使用時の注意事項

本製品の内蔵モデムをご使用になる場合は、次の注意事項を守ってください。

内蔵モデムは、財団法人 電気通信端末機器審査協会により電気通信事業法第 50 条 1 項に基づき、技術基準適合認定を受けたものです。

認定番号 A04-0609001

●対応地域

内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、アルゼンチン、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、ブラジル、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、メキシコ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

（2006 年 12 月現在）

●自動再発信の制限

内蔵モデムは 2 回を超える再発信（リダイヤル）は、発信を行わず『BLACK LISTED』を返します（『BLACK LISTED』の応答コードが問題になる場合は、再発信を 2 回以下または再発信間隔を 1 分以上にしてください）。

＊ 内蔵モデムの自動再発信機能は、電気通信事業法の技術基準（アナログ電話端末）「自動再発信機能は 2 回以内（但し、最初の発信から 3 分以内）」に従っています。

Conformity Statement

The equipment has been approved to [Commission Decision "CTR21"] for pan-European single terminal connection to the Public Switched Telephone Network (PSTN).
However, due to differences between the individual PSTNs provided in different countries/regions the approval does not, of itself, give an unconditional assurance of successful operation on every PSTN network termination point.
In the event of problems, you should contact your equipment supplier in the first instance.

Network Compatibility Statement

This product is designed to work with, and is compatible with the following networks. It has been tested to and found to confirm with the additional requirements conditional in EG 201 121.

Germany	- ATAAB AN005,AN006,AN007,AN009,AN010 and DE03,04,05,08,09,12,14,17
Greece	- ATAAB AN005,AN006 and GR01,02,03,04
Portugal	- ATAAB AN001,005,006,007,011 and P03,04,08,10
Spain	- ATAAB AN005,007,012, and ES01
Switzerland	- ATAAB AN002
All other countries/regions	- ATAAB AN003,004

Specific switch settings or software setup are required for each network, please refer to the relevant sections of the user guide for more details.
The hookflash (timed break register recall) function is subject to separate national type approvals. If has not been tested for conformity to national type regulations, and no guarantee of successful operation of that specific function on specific national networks can be given.

Pursuant to FCC CFR 47, Part 68:

When you are ready to install or use the modem, call your local telephone company and give them the following information:

- The telephone number of the line to which you will connect the modem
- The registration number that is located on the device

The FCC registration number of the modem will be found on either the device which is to be installed, or, if already installed, on the bottom of the computer outside of the main system label.

- The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
  For the REN of your modem, refer to your modem's label.

The modem connects to the telephone line by means of a standard jack called the USOC RJ11C.

Type of service

Your modem is designed to be used on standard-device telephone lines.
Connection to telephone company-provided coin service (central office implemented systems) is prohibited. Connection to party lines service is subject to state tariffs. If you have any questions about your telephone line, such as how many pieces of equipment you can connect to it, the telephone company will provide this information upon request.

Telephone company procedures

The goal of the telephone company is to provide you with the best service it can.
In order to do this, it may occasionally be necessary for them to make changes in their equipment, operations, or procedures. If these changes might affect your service or the operation of your equipment, the telephone company will give you notice in writing to allow you to make any changes necessary to maintain uninterrupted service.

If problems arise

If any of your telephone equipment is not operating properly, you should immediately remove it from your telephone line, as it may cause harm to the telephone network. If the telephone company notes a problem, they may temporarily discontinue service. When practical, they will notify you in advance of this disconnection. If advance notice is not feasible, you will be notified as soon as possible. When you are notified, you will be given the opportunity to correct the problem and informed of your right to file a complaint with the FCC.
In the event repairs are ever needed on your modem, they should be performed by TOSHIBA Corporation or an authorized representative of TOSHIBA Corporation.

Disconnection

If you should ever decide to permanently disconnect your modem from its present line, please call the telephone company and let them know of this change.

Fax branding

The Telephone Consumer Protection Act of 1991 makes it unlawful for any person to use a computer or other electronic device to send any message via a telephone fax machine unless such message clearly contains in a margin at the top or bottom of each transmitted page or on the first page of the transmission, the date and time it is sent and an identification of the business, other entity or individual sending the message and the telephone number of the sending machine or such business, other entity or individual.
In order to program this information into your fax modem, you should complete the setup of your fax software before sending messages.

Instructions for IC CS-03 certified equipment

1 NOTICE : The Industry Canada label identifies certified equipment. This certification means that the equipment meets certain telecommunications network protective, operational and safety requirements as prescribed in the appropriate Terminal Equipment Technical Requirements document(s). The Department does not guarantee the equipment will operate to the user's satisfaction.

Before installing this equipment, users should ensure that it is permissible to be connected to the facilities of the local telecommunications company. The equipment must also be installed using an acceptable method of connection.

The customer should be aware that compliance with the above conditions may not prevent degradation of service in some situations.

Repairs to certified equipment should be coordinated by a representative designated by the supplier. Any repairs or alterations made by the user to this equipment, or equipment malfunctions, may give the telecommunications company cause to request the user to disconnect the equipment.

Users should ensure for their own protection that the electrical ground connections of the power utility, telephone lines and internal metallic water pipe system, if present, are connected together. This precaution may be particularly important in rural areas.

Caution: Users should not attempt to make such connections themselves, but should contact the appropriate electric inspection authority, or electrician, as appropriate.

2 The user manual of analog equipment must contain the equipment's Ringer Equivalence Number (REN) and an explanation notice similar to the following:

The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.

For the REN of your modem, refer to your modem’s label.

NOTICE : The Ringer Equivalence Number (REN) assigned to each terminal device provides an indication of the maximum number of terminals allowed to be connected to a telephone interface. The termination on an interface may consist of any combination of devices subject only to the requirement that the sum of the Ringer Equivalence Numbers of all the devices does not exceed 5.

3 The standard connecting arrangement (telephone jack type) for this equipment is jack type(s): USOC RJ11C.

CANADA:4005B-ATHENS

Notes for Users in Australia and New Zealand

Modem warning notice for Australia

Modems connected to the Australian telecoms network must have a valid Austel permit. This modem has been designed to specifically configure to ensure compliance with Austel standards when the region selection is set to Australia.
The use of other region setting while the modem is attached to the Australian PSTN would result in you modem being operated in a non-compliant manner.
To verify that the region is correctly set, enter the command ATI which displays the currently active setting.

To set the region permanently to Australia, enter the following command sequence:

AT%TE=1
ATS133=1
AT&F
AT&W
AT%TE=0
ATZ

Failure to set the modem to the Australia region setting as shown above will result in the modem being operated in a non-compliant manner. Consequently, there would be no permit in force for this equipment and the Telecoms Act 1991 prescribes a penalty of $12,000 for the connection of non-permitted equipment.

Notes for use of this device in New Zealand

- The grant of a Telepermit for a device in no way indicates Telecom acceptance of responsibility for the correct operation of that device under all operating conditions. In particular the higher speeds at which this modem is capable of operating depend on a specific network implementation which is only one of many ways of delivering high quality voice telephony to customers. Failure to operate should not be reported as a fault to Telecom.
- In addition to satisfactory line conditions a modem can only work properly if:
  a/ it is compatible with the modem at the other end of the call and
  b/ the application using the modem is compatible with the application at the other end of the call - e.g., accessing the Internet requires suitable software in addition to a modem.
- This equipment shall not be used in any manner which could constitute a nuisance to other Telecom customers.
- Some parameters required for compliance with Telecom's PTC
  Specifications are dependent on the equipment (PC) associated with this modem. The associated equipment shall be set to operate within the following limits for compliance with Telecom Specifications:
  a/ There shall be no more than 10 call attempts to the same number within any 30 minute period for any single manual call initiation, and

b/ The equipment shall go on-hook for a period of not less than 30 seconds between the end of one attempt and the beginning of the next.

c/ Automatic calls to different numbers shall be not less than 5 seconds apart.

- Immediately disconnect this equipment should it become physically damaged, and arrange for its disposal or repair.
- The correct settings for use with this modem in New Zealand are as follows:

  ATB0 (CCITT operation)
  AT&G2 (1800 Hz guard tone)
  AT&P1 (Decadic dialing make-break ratio =33%/67%)
  ATS0=0 (not auto answer)
  ATS10=less than 150 (loss of carrier to hangup delay, factory default of 15 recommended)
  ATS11=90 (DTMF dialing on/off duration=90 ms)
  ATX2 (Dial tone detect, but not (U.S.A.) call progress detect)
- When used in the Auto Answer mode, the S0 register must be set with a value between 3 or 4. This ensures:

(a) a person calling your modem will hear a short burst of ringing before the modem answers. This confirms that the call has been successfully switched through the network.

(b) caller identification information (which occurs between the first and second ring cadences) is not destroyed.

- The preferred method of dialing is to use DTMF tones (ATDT...) as this is faster and more reliable than pulse (decadic) dialing. If for some reason you must use decadic dialing, your communications program must be set up to record numbers using the following translation table as this modem does not implement the New Zealand "Reverse Dialing" standard.
  Number to be dialed: 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
  Number to program into computer: 0 9 8 7 6 5 4 3 2 1
  Note that where DTMF dialing is used, the numbers should be entered normally.
- The transmit level from this device is set at a fixed level and because of this there may be circumstances where the performance is less than optimal.
  Before reporting such occurrences as faults, please check the line with a standard Telepermitted telephone, and only report a fault if the phone performance is impaired.
- It is recommended that this equipment be disconnected from the Telecom line during electrical storms.
- When relocating the equipment, always disconnect the Telecom line connection before the power connection, and reconnect the power first.
- This equipment may not be compatible with Telecom Distinctive Alert cadences and services such as Fax Ability.

NOTE THAT FAULT CALL OUT CAUSED BY ANY OF THE ABOVE CAUSES MAY INCUR A CHARGE FROM TELECOM

General conditions

As required by PTC 100, please ensure that this office is advised of any changes to the specifications of these products which might affect compliance with the relevant PTC Specifications.

The grant of this Telepermit is specific to the above products with the marketing description as stated on the Telepermit label artwork. The Telepermit may not be assigned to other parties or other products without Telecom approval.

A Telepermit artwork for each device is included from which you may prepare any number of Telepermit labels subject to the general instructions on format, size and colour on the attached sheet.

The Telepermit label must be displayed on the product at all times as proof to purchasers and service personnel that the product is able to be legitimately connected to the Telecom network.

The Telepermit label may also be shown on the packaging of the product and in the sales literature, as required in PTC 100.

The charge for a Telepermit assessment is $337.50. An additional charge of $337.50 is payable where an assessment is based on reports against non-Telecom New Zealand Specifications. $112.50 is charged for each variation when submitted at the same time as the original.

An invoice for $NZ1237.50 will be sent under separate cover.

Panasonic DVDスーパーマルチドライブ UJ-850/UJ-841
（DVDスーパーマルチドライブ DVD±R 2層式メディア対応）
安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

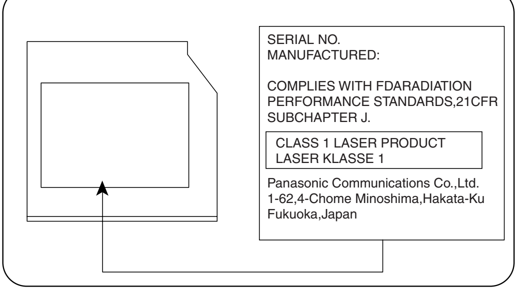
⚠注 意

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION	CLASS 3B VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION	CLASSE 3B RAYONNEMENT LASER VISIBLE ET INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
VORSICHT	KLASSE 3B SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLING.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
VARNING	KLASS 3B SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.
VARO !	KURSSI 3B NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE, ÄLÄ KATSO SÄTEESEN.

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。
   本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
   本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格EN60825で“クラス1レーザー機器”に分類されています。
   レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。
2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

Location of the required label



Pioneer DVD スーパーマルチドライブ DVR-K16（DVD スーパーマルチドライブ DVD ± R 2 層式メディア対応）安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠注 意

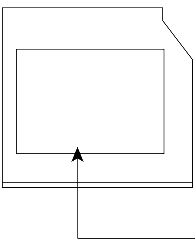
1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。
本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格 EN60825 で“クラス 1 レーザー機器”に分類されています。
レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION	CLASS 3B VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION	CLASSE 3B RAYONNEMENT LASER VISIBLE ET INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
VORSICHT	KLASSE 3B SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLING.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
VARNING	KLASS 3B SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.
VARO !	KURSSI 3B NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE, ÄLÄ KATSO SÄTEESEN.

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

Location of the required label



MFD.
SER.NO.

CERTIFICATION
THIS PRODUCT COMPLIES WITH 21 CFR 1040. 10 AND 1040. 11 EXCEPT FOR DEVIATIONS PURSUANT TO LASER NOTICE NO.50.

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

PIONEER CORPORATION.
4-1, MEGURO 1-CHOME, MEGURO-KU, TOKYO, 153-8854, JAPAN

TEAC DVD スーパーマルチドライブ DV-W28EB
（DVD スーパーマルチドライブ DVD ± R 2 層式メディア対応）
安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠注 意

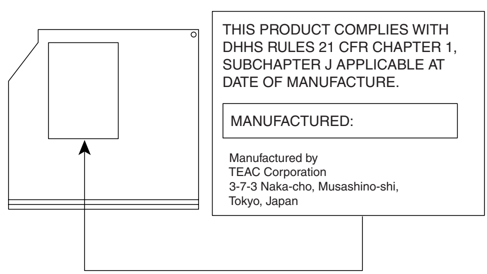
1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。
   本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
   本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格 EN60825 で“クラス 1 レーザー機器”に分類されています。
   レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION	CLASS 3B INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION	CLASSE 3B RAYONNEMENT LASER INVISIBLE EN CAS D’OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
VORSICHT	KLASSE 3B UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
ADVARSEL	KLASSE 3B USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLEN.
ADVARSEL	KLASSE 3B USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNDGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
VARNING	KLASS 3B OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLEN ÄR FARLIG.
VARO !	KURSSI 3B NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTINA LASERSÄTEILYLLE. ÄLÄ KATSO SÄTEESEEN.

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

Location of the required label



Panasonic CD-RW ／ DVD-ROM ドライブ UJDA770 （DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ） 安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

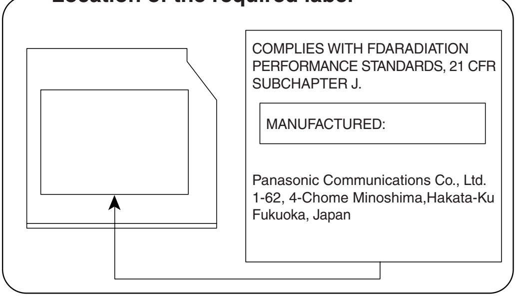
⚠注 意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。
   本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
   本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格 EN60825 で“クラス 1 レーザー機器”に分類されています。
   レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。
2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION	CLASS 3B VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION	CLASSE 3B RAYONNEMENT LASER VISIBLE ET INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
VORSICHT	KLASSE 3B SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLING.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
VARNING	KLASS 3B SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.
VARO !	KURSSI 3B NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE, ÄLÄ KATSO SÄTEESEN.

Location of the required label



付録

Toshiba Samsung Storage Technology
DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ TS-L462C
（DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ）
安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

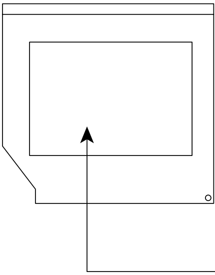
⚠注 意

CLASS 1 LASER PRODUCT
APPAREIL À LASER DE CLASSE 1
LASER KLASSE 1 PRODUKT
TO EN 60825-1
クラス 1 レーザー製品
TO EN 60825-1:1994 / A2:2001

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。
   本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
   本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格 EN60825 で“クラス 1 レーザー機器”に分類されています。レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。
2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

DANGER	-VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM. (for 21 CFR)
CAUTION	-CLASS 3B VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO THE BEAM.
ATTENTION	-LASER DE CLASSE 3B RAYONNEMENT VISIBLE ET INVISIBLE, EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE DE L'OEIL OU DE LA PEAU RAYONNEMENT DIRECT OU DIFFUS.
VORSICHT	-SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG KLASSE 3B, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
ADVARSEL	-KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDSÆTTELSE FOR STRÅLING
ADVARSEL	-KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
VARO!	-LUOKAN 3B NÄKYVÄÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE. ÄLÄ KATSO SÄTEESEEN.
VARNING	-SYNLIG OCH OSYNLIG KLASSE 3B LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÅR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.
注意	-打开时有3B等級的可见及不可见激光辐射。避免激光束照射。
注意	-ここを開くとクラス3B可視レーザー光及び不可視レーザー光が出ます。ビームに身をさらさないこと。

Location of the required label



PRODUCT IS CERTIFIED BY THE
MANUFACTURER TO COMPLY
WITH DHHS RULES 21 CFR
SUBCHAPTER J APPLICABLE AT
THE DATE OF MANUFACTURE.
MANUFACTURED:

TOSHIBA SAMSUNG STRAGE
TECHNOLOGY CORPORATION
580, HORIKAWA-CHO, SAIWAI-KU,
KAWASAKI-SHI, KANAGAWA212-0013,
JAPAN

TEAC DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ DW-224E（DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ）安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠注 意

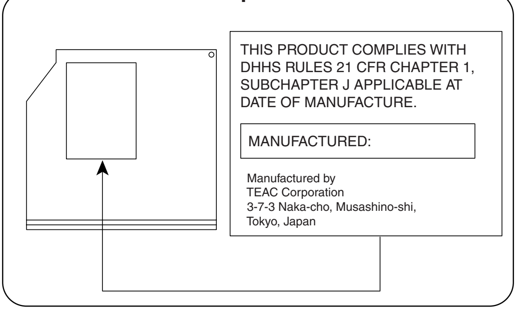
1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。
   本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
   本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格 EN60825 で“クラス 1 レーザー機器”に分類されています。
   レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION	CLASS 3B INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION	CLASSE 3B RAYONNEMENT LASER INVISIBLE EN CAS D’OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
VORSICHT	KLASSE 3B UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
ADVARSEL	KLASSE 3B USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLEN.
ADVARSEL	KLASSE 3B USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNDGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
VARNING	KLASS 3B OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLEN ÄR FARLIG.
VARO !	KURSSI 3B NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTINA LASERSÄTEILYLLE. ÄLÄ KATSO SÄTEESEEN.

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

Location of the required label



TEAC DVD-ROM ドライブ DV-28EN
安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠注 意

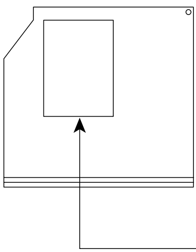
1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。
本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格 EN60825 で“クラス 1 レーザー機器”に分類されています。
レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION	CLASS 3B INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION	CLASSE 3B RAYONNEMENT LASER INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
VORSICHT	KLASSE 3B UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
ADVARSEL	KLASSE 3B USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLEN.
ADVARSEL	KLASSE 3B USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNDGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
VARNING	KLASS 3B OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLEN ÄR FARLIG.
VARO !	KURSSI 3B NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTINA LASERSÄTEILYLLE. ÄLÄ KATSO SÄTEESEEN.

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

Location of the required label



THIS PRODUCT COMPLIES WITH
DHHS RULES 21 CFR CHAPTER 1,
SUBCHAPTER J APPLICABLE AT
DATE OF MANUFACTURE.

MANUFACTURED:

Manufactured by
TEAC Corporation
3-7-3 Naka-cho, Musashino-shi,
Tokyo, Japan

付録

TEAC CD-ROM ドライブ CD-224E
安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

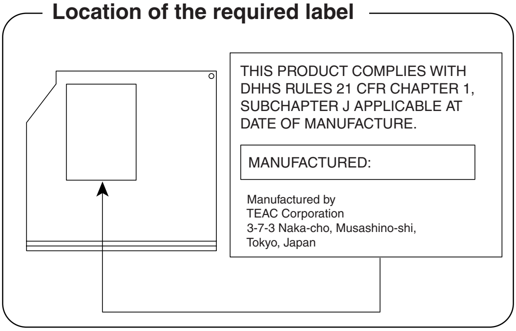
⚠注 意

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION	CLASS 3B INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION	CLASSE 3B RAYONNEMENT LASER INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
VORSICHT	KLASSE 3B UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
ADVARSEL	KLASSE 3B USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLEN.
ADVARSEL	KLASSE 3B USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNDGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
VARNING	KLASS 3B OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLEN ÄR FARLIG.
VARO !	KURSSI 3B NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTINA LASERSÄTEILYLLE. ÄLÄ KATSO SÄTEESEEN.

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。
   本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
   本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格 EN60825 で“クラス 1 レーザー機器”に分類されています。
   レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。
2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

Location of the required label



3 無線LANについて

＊無線LANモデルのみ

1 無線特性

無線LANの無線特性は、製品を購入した国／地域、購入した製品の種類により異なる場合があります。

多くの場合、無線通信は使用する国／地域の無線規制の対象になります。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない5GHz帯および2.4GHz帯で動作するように設計されていますが、国／地域の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。

各地域で適用される無線規制については、「本節 5 お客様に対するお知らせ」を確認してください。

IEEE802.11aは、屋内でのみ使用できます。

無線周波数帯	IEEE802.11a	5GHz（5150-5350MHz）
	IEEE802.11b IEEE802.11g	2.4GHz（2400-2497MHz）
変調方式	IEEE802.11a IEEE802.11g	直交周波数分割多重方式 OFDM-BPSK, OFDM-QPSK OFDM-16QAM, OFDM-64QAM
	IEEE802.11b	直接拡散方式 DSSS-CCK, DSSS-DQPSK, DSSS-DBPSK

無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広くなります。

付録

メモ

- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る"障害物"がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

2 サポートする周波数帯域

無線 LAN がサポートする 5GHz 帯および 2.4GHz 帯のチャネルは、国／地域で適用される無線規制によって異なる場合があります（表「無線 IEEE802.11 チャネルセット」参照）。
各地域で適用される無線規制については、「本節 5 お客様に対するお知らせ」を確認してください。

【 無線 IEEE802.11 チャネルセット 】

IEEE802.11a（5GHz）の場合

周波数帯域		5150-5350 MHz
	チャネルID	
J52	34	5170
	38	5190
	42	5210
	46	5230
W52	36	5180
	40	5200
	44	5220
	48	5240
W53	52	5260
	56	5280
	60	5300
	64	5320

J52 ：従来の Ch34(5170MHz)、Ch38(5190MHz)、Ch42(5210MHz)、Ch46(5230MHz)に対応する場合
W52 ：新たに規定された Ch36(5180MHz)、Ch40(5200MHz)、Ch44 (5220MHz)、Ch48(5240MHz)に対応する場合
W53 ：新たに規定された Ch52(5260MHz)、Ch56(5280MHz)、Ch60 (5300MHz)、Ch64(5320MHz)に対応する場合

アクセスポイント側のチャネル(J52/W52/W53)に合わせて、そのチャネルに自動的に設定されます。

IEEE802.11b／IEEE802.11g（2.4GHz）の場合

周波数帯域	2400-2497 MHz
チャネルID	
1	2412
2	2417
3	2422
4	2427
5	2432
6	2437
7	2442
8	2447
9	2452
10	**2457** ＊1
11	2462
12	2467
13	2472
14	2484

＊1　購入時、アドホックモード接続時に使用するチャネルとして設定されているチャネルです。

無線 LAN をインストールする場合、チャネル設定は、次のように管理されます。

- インフラストラクチャで無線 LAN 接続する場合、ステーションが自動的に無線 LAN アクセスポイントのチャネルに切り替えます。異なるアクセスポイント間をローミングする場合は、ステーションが必要に応じて自動的にチャネルを切り替えます。無線 LAN アクセスポイントの設定チャネルもこの範囲にする必要があります。

付録

3 本製品を日本でお使いの場合のご注意

日本では、本製品を第二世代小電力データ通信システムに位置付けており、その使用周波数帯は2,400MHz～2,483.5MHzです。この周波数帯は、移動体識別装置（移動体識別用構内無線局及び移動体識別用特定小電力無線局）の使用周波数帯2,427MHz～2,470.75MHzと重複しています。
電波法により、5GHz帯無線LANの屋外での使用は禁止されています。

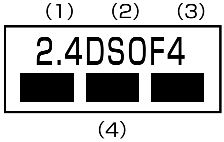
【 1.ステッカー 】

本製品を日本国内にてご使用の際には、本製品に付属している次のステッカーをパソコン本体に張ってください。

> この機器の使用周波数帯は　2.4GHz帯です。この周波数では電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用されている免許を要する移動体識別用 の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア 無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。
> 1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
> 2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
> 3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、東芝PCあんしんサポートへお問い合わせください。

【 2.現品表示 】

本製品と梱包箱には、次に示す現品表示が記載されています。



(1) 2.4　：2,400MHz帯を使用する無線設備を表す。
(2) DS　：変調方式がDS-SS方式であることを示す。
　　OF　：変調方式がOFDM方式であることを示す。
(3) 4　：想定される与干渉距離が40m以下であることを示す。
(4) ■ ■ ■　：2,400MHz～2,483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

【 3. 東芝PCあんしんサポート 】
技術相談窓口 受付時間 ： 9:00 ～ 19:00（年中無休）
全国共通電話番号 ： 0120-97-1048（通話・電話サポート料無料）

4 機器認証表示について

本製品には、電気通信事業法に基づく小電力データ通信システムの無線局として、次の認証を受けた無線設備を内蔵しています。したがって、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

【 a/b/g対応モデル 】
無線設備名：AR5BXB6
株式会社　ディーエスピーリサーチ
認証番号　：D05-0072003

【 b/g対応モデル 】
無線設備名：AR5BXB61
株式会社　ディーエスピーリサーチ
認証番号　：D05-0110003

本製品に組み込まれた無線設備は、本製品（ノートブックコンピュータ）に実装して使用することを前提に、小電力データ通信システムの無線局として工事設計の認証を取得しています。したがって、組み込まれた無線設備を他の機器へ流用した場合、電波法の規定に抵触する恐れがありますので、十分にご注意ください。

5 お客様に対するお知らせ

【 無線製品の相互運用性 】
Atheros AR5006EX/5006EG Wireless Network Adapter製品は、Direct Sequence Spread Spectrum（DSSS）／Orthognal Frequency Division Multiplexing（OFDM）無線技術を使用する無線LAN製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Institute of Electrical and Electronics Engineers（米国電気電子技術者協会）策定のIEEE802.11 Standard on Wireless LANs(Revision A/B/G)（無線LAN標準規格(版数 A/B/G)）
- Wi-Fi Allianceの定義するWireless Fidelity（Wi-Fi）認証

【 健康への影響 】

Atheros AR5006EX/5006EG Wireless Network Adapter 製品は、ほかの無線製品と同様、無線周波の電磁エネルギーを放出します。しかしその放出エネルギーは、携帯電話などの無線機器と比べるとはるかに低いレベルに抑えられています。

Atheros AR5006EX/5006EG Wireless Network Adapter 製品の動作は無線周波に関する安全基準と勧告に記載のガイドラインにそっており、安全にお使いいただけるものと東芝では確信しております。この安全基準および勧告には、学会の共通見解と、多岐にわたる研究報告書を継続的に審査、検討している専門家の委員会による審議結果がまとめられています。

ただし周囲の状況や環境によっては、建物の所有者または組織の責任者が Wireless LAN の使用を制限する場合があります。次にその例を示します。

- 飛行機の中で Wireless LAN 装置を使用する場合
- ほかの装置類またはサービスへの電波干渉が認められるか、有害であると判断される場合

個々の組織または環境（空港など）において無線機器の使用に関する方針がよくわからない場合は、Wireless LAN 装置の電源を入れる前に、管理者に使用の可否について確認してください。

【 規制に関する情報 】

Atheros AR5006EX/5006EG Wireless Network Adapter 製品のインストールと使用に際しては、必ず製品付属のマニュアルに記載されている製造元の指示に従ってください。b/g 対応モデルは、次に示す無線周波基準と安全基準に準拠しています。

● Canada - Industry Canada (IC)

This device complies with RSS 210 of Industry Canada.
Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause interference , and (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of this device."
L ' utilisation de ce dispositif est autorisée seulement aux conditions suivantes : (1) il ne doit pas produire de brouillage et (2) l' utilisateur du dispositif doit étre prêt à accepter tout brouillage radioélectrique reçu, même si ce brouillage est susceptible de compromettre le fonctionnement du dispositif.
The tern "IC" before the equipment certification number only signifies that the Industry Canada technical spacifications were met.

To reduce potential radio interference to other users, the antenna type and its gain should be so chosen that the equivalent isotropically radiated power (EIRP) is not more than that required for successful communication.
To prevent radio interference to the licensed service, this device is intended to be operated indoors and away from windows to provide maximum shielding. Equipment (or its transmit antenna) that is installed outdoors is subject to licensing.

Pour empecher que cet appareil cause du brouillage au service faisant l'objet d'une licence, il doit etre utilize a l'interieur et devrait etre place loin des fenetres afin de Fournier un ecram de blindage maximal. Si le matriel (ou son antenne d'emission) est installe a l'exterieur, il doit faire l'objet d'une licence.

● Europe - EU Declaration of Conformity

Marking by the above symbol indicates compliance with the Essential Requirements of the R&TTE Directive of the European Union (1999/5/EC).

Europe - Restrictions for Use of 2.4GHz Frequencies in European Community Countries

België/	For private usage outside buildings across public grounds over less than 300m no special registration with IBPT/BIPT is required. Registration to IBPT/BIPT is required for private usage outside buildings across public grounds over more than 300m. For registration and license please contact IBPT/BIPT.
	Voor privé-gebruik buiten gebouw over publieke groud over afstand kleiner dan 300m geen registratie bij BIPT/IBPT nodig; voor gebruik over afstand groter dan 300m is wel registratie bij BIPT/IBPT nodig. Voor registratie of licentie kunt u contact opnemen met BIPT.
	Dans le cas d'une utilisation privée, à l'extérieur d'un bâtiment, au-dessus d'un espace public, aucun enregistrement n'est nécessaire pour une distance de moins de 300m. Pour une distance supérieure à 300m un enregistrement auprès de I'IBPT est requise. Pour les enregistrements et licences, veuillez contacter I'IBPT.
Deutschland:	License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow
	Anmeldung im Outdoor-Bereich notwendig, aber nicht genehmigungspflichtig. Bitte mit Händler die Vorgehensweise abstimmen.
France:	Restricted frequency band: only channels 1 to 7 (2400 MHz and 2454 MHz respectively) may be used outdoors in France.
	Bande de fréquence restreinte : seuls les canaux 1-7 (2400 et 2454 MHz respectivement) doivent être utilisés endroits extérieur en France. Vous pouvez contacter I'Autorité de Régulation des Télécommuniations (http://www.art-telecom.fr) pour la procédure à suivre.
Italia:	License required for indoor use. Use with outdoor installations not allowed.
	E'necessaria la concessione ministeriale anche per l'uso interno. Verificare con i rivenditori la procedura da seguire.
Nederland	License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow
	Licentie verplicht voor gebruik met buitenantennes. Neem contact op met verkoper voor juiste procedure

To remain in conformance with European spectrum usage laws for Wireless LAN operation, the above 2.4GHz channel limitations apply for outdoor usage. The user should use the wireless LAN utility to check the current channel of operation. If operation is occurring outside of the allowable frequencies for outdoor use, as listed above, the user must contact the applicable national spectrum regulator to request a license for outdoor operation.

● USA-Federal Communications Commission(FCC)

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy. If not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation.
If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by tuning the equipment off and on, the user is encouraged to try and correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna
- Increase the distance between the equipment and the receiver.
- Connect the equipment to outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

TOSHIBA is not responsible for any radio or television interference caused by unauthorized modification of the devices included with this Atheros 5006EG Wireless Network Adapter, or the substitution or attachment of connecting cables and equipment other than specified by TOSHIBA.
The correction of interference caused by such unauthorized modification, substitution or attachment will be the responsibility of the user.

Caution: Exposure to Radio Frequency Radiation.

The radiated output power of the Atheros 5006EG Wireless Network Adapter is far below the FCC radio frequency exposure limits. Nevertheless, the Atheros 5006EG Wireless Network Adapter shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized.In normal operating configuration, the LCD in the upright position, the distance between the antenna and the user should not be less than 20cm.This device and its antenna(s) must not be co-located or operating in conjunction with any other antenna or transmitter. Refer to the Regulatory Statements as identified in the documentation that comes with those products for additional information.
The installer of this radio equipment must ensure that the antenna is located or pointed such that it does not emit RF field in excess of Health Canada limits for the general population; consult Safety Code 6, obtainable from Health Canada’s website www.hc-sc.gc.ca/rpb.

● Taiwan

Article 12
Without permission granted by the DGT, any company, enterprise, or user is not allowed to change frequency, enhance transmitting power or alter original characteristic as well as performance to a approved low power radio-frequency devices.

Article 14
The low power radio-frequency devices shall not influence aircraft security and interfere legal communications; If found, the user shall cease operating immediately until no interference is achieved.
The said legal communications means radio communications is operated in compliance with the Telecommunications Act.
The low power radio-frequency devices must be susceptible with the interference from legal communications or ISM radio wave radiated devices.

6 ご使用になれる国／地域について

お願い

- 本製品は、次にあげる国／地域の無線規格を取得しております。
これらの国／地域以外では使用できません。

【 b/g 対応モジュールタイプ 】

- 802.11b モードおよび 802.11g モードでのアドホック接続は、チャネル 1 ～チャネル 11 で使用できます。
- 802.11b モードおよび 802.11g モードでのインフラストラクチャ接続は、チャネル 1 ～チャネル 11 で使用できます。

●802.11b/g（2.4GHz）

アイスランド	スイス	ハンガリー
アイルランド	スウェーデン	フィリピン
アメリカ合衆国	スペイン	フィンランド
イギリス	スロバキア	フランス
イタリア	スロベニア	ベルギー
インド	タイ	ポーランド
エジプト	台湾	ポルトガル
エストニア	チェコ	香港
オーストラリア	中国	マルタ
オーストリア	デンマーク	マレーシア
オランダ	ドイツ	ラトビア
カナダ	日本	リトアニア
キプロス	ニュージーランド	リヒテンシュタイン
ギリシャ	ノルウェー	ルクセンブルク
シンガポール	バーレーン	ロシア

【 a/b/g対応モジュールタイプ 】

- 802.11aモードではアドホック接続は使用できません。
- 802.11b/gモードでのアドホック接続は、チャネル1～チャネル11で使用できます。
- 802.11bモードでのインフラストラクチャ接続は、チャネル1～チャネル14で使用できます。
- 802.11gモードでのインフラストラクチャ接続は、チャネル1～チャネル13で使用できます。
- 802.11aモードでのインフラストラクチャ接続は、Ch34、36、38、40、42、44、46、48、52、56、60、64で使用できます。

●802.11b/g（2.4GHz）／802.11a（5GHz）
日本でのみ使用できます。